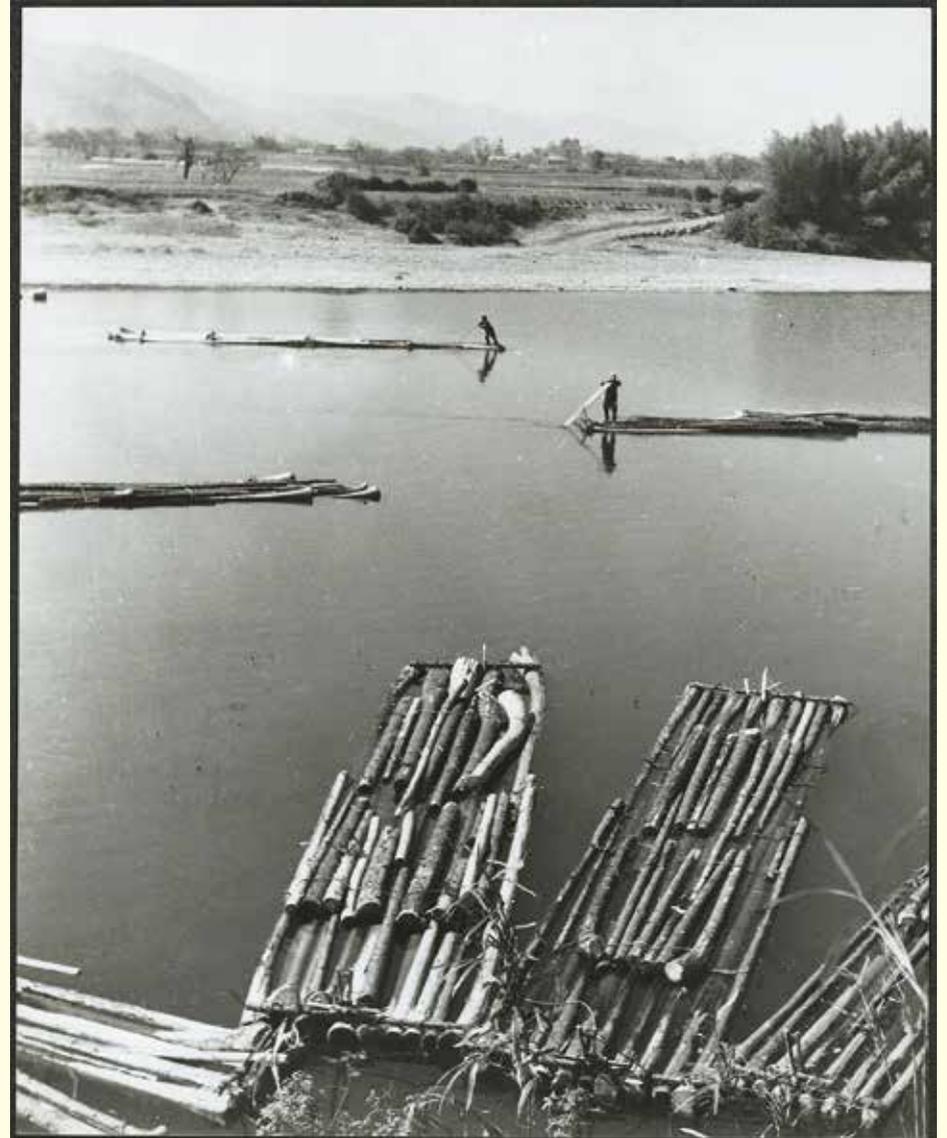


流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2018
6
第27号

追悼・麦島勝さん



昭和20年代の「球磨川のいかだ流し」撮影／麦島勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



（原）佐々木康平
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2013



飲酒は20歳を過ぎから、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響を与えるおそれがあります。

織月酒造株式会社
http://www.sengetsu.co.jp/
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

月刊 くまがわ春秋 第27号 2018年6月15日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
http://www.hitooyoshi.co.jp/ info@hitooyoshi.co.jp

定価 540円 本体 500円

雑誌 81779-06-8



4910817790680
00500

最近のおもな出来事

- 5月17日(木)
 - ▽2018「黄文会」水彩画展(〜20日、お菓子の香梅人吉店)
- 5月19日(土)
 - ▽画家・流郷由紀子と染織家・佐藤美恵子のコラボ展(〜26日、ひこよし森のホール)
- 5月20日(日)
 - ▽第32回「織月まつり」(人吉市・織月酒造敷地内)
- 5月21日(月)
 - ▽人吉球磨日本遺産活用協議会総会(県球磨地域振興局)
- 5月27日(日)
 - ▽「MOZOCAステーション868」3周年記念イベント(人吉駅横・同ステーション)
 - ▽人吉市梅園梅狩り開放(同市大畑梅園)
 - ▽人吉市東西「ミセン」子ども・成人講座開講式(同「ミセン」)
- ▽ツクシイバラ・ウオーキング大会・コンサート(くま川鉄道「錦町木上駅」近くツクシイバラ群生地)
- 6月1日(金)
 - ▽球磨川水系「鮎漁解禁」
- 6月7日(木)
 - ▽近代日本美術協会人吉グループ作品展(〜10日、ひこよし森のホール)
- 6月9日(土)
 - ▽青井阿蘇神社国宝指定10周年記念「フードフェスタ」(〜10日、同神社境内と参道)

6月(第27号) 目次

- 巻頭言「ご禁制の世には」 宮原信晃…2
- ツクシイバラを後世に…3
- 第22回割り勘コンサート…4
- 第2回さかもと国際児童画展…5
- 不知火海・球磨川流域園学会…6
- 柳人があじわう漱石俳句⑦ いわさき楊子…7
- 球磨川の駅・ものがたり⑦ 松本晋一…8
- くまがわの神さん仏さん② 宮原信晃…12
- 建築みてある記②「安楽院」 森山学…24
- 地域探訪②「八代市坂本町松崎地区」…28
- 新・日曜釣り師心得⑦ 宮原赤竿…30

追悼・麦島勝さん

- 麦島勝の仕事と課題…15
- 麦島勝氏のこと 松本晋一…18
- 静かなる芸術写真 石原浩…21
- 麦島さんのこと 坂本福治…22
- 懐かしき一景 木崎康弘…23
- 筏師 上村雄一…48
- 茅葺屋根の茅葺作業…51



今月の一言
『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より
肉体労働は、くだらぬお喋りを免れさせてくれるというだけでも、すでに有益である。

表紙写真

昭和20年代の「球磨川のいかだ流し」

撮影／麦島勝

写真提供／八代市立博物館未来の森ミュージアム



林業が盛んであった昭和20年代は、豊富な木材を筏に組んで球磨川を下り、流れの緩やかな場所では櫓を漕いで、八代の製材所まで運んでいた。

- 記憶の落ち穂②⑥ 坂本福治…33
- あかつ段②④ 上杉芳野…34
- 天草エアライン「乗り放題」挑戦記③ 松本晋一…36
- 水俣城跡訪問記 上村雄一…42
- くまがわすじの考古地誌⑩⑨ 木崎康弘…44
- 石橋を訪ねる①「鑑内橋」…52
- 「老いらん」道中③…54
- 少子化社会と所得格差…56
- 人吉藩の明治維新① 益田啓三…58
- 鶴鶴短歌会…65
- 方言を味わう②③ 前田一洋…66
- 天草の「五足の靴」② 富永和信…69
- 漢和字典は面白い⑩ 鶴上寛治…71
- 倉敷便り⑧ 原田正史…72
- 小説・相良清兵衛⑤ 山口啓三…75
- くまがわ狂句 村上鬼拳…79
- 映画観想記② 久馬俊…80
- いもご短歌会…82
- くまがわ学習塾⑩⑧…83
- 外来語から学ぶ英単語⑦ 藤原 宏…84
- ひるしの「げっかん・ぎひょう」…84
- おととわつとあすび 松舟博満…85
- 今月の秀句永田満徳…86
- 前号【くまがわ学習塾⑦の答え】…87



本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

ツクシイバラを後世に



記念撮影する家族連れ



好評だった球磨川ローズボート



様々な提言が出た「ツクシイバラサミット」は夕暮れまで続いた

ツクシイバラの開花の時期に合わせて球磨郡錦町の群生地では様々なイベントが開催され、爽やかな風が吹くなかで多くの人が花を楽しんだ。

この催しは、球磨川ツクシイバラの会（桑原史佳会長）が中心

となって毎年開催しているもので、広場でのおもてなしやウォーキング大会が行われた。今回から始めた「球磨川ローズボート」は球磨川からツクシイバラを見学するもので、ボートに乗って多くの人が楽しんだ。

可憐な花に囲まれて 群生地でも様々なイベント

5月27日に開催された「ツクシイバラサミット」では、人吉球磨の首長やボランティア団体の代表、国土交通省関係者らが一堂に会し、「ツクシイバラを観光資源に」などの声が上がったほか、地域の魅力や夢を語り合った。

巻頭言

天草と人吉のご禁制の世には

世界文化遺産に登録されようとしている天草の崎津教会を訪れた。崎津教会を見おろす崎津諏訪神社から教会と崎津の集落を望む風景に、何を残したから世界文化遺産へなるのかと目を大きく見開いた。静かなたたずまいの小さな漁村が一躍脚光を浴びる中で、観光案内人がそこに集まった観光客相手に懸命に話をしている。

「皆さん、ようこそお越し頂きました。この教会は昭和2年に赴任してきたフランス人司祭ハルブ神父の希望で、踏み絵の場所のここに教会が建てられました。皆さん教会の中は撮影禁止ですよ。お祈りをされている信者の方にご迷惑をかけないようにお静かにお願いします。」

向こうをご覧下さい。あそこに崎津諏訪神社が見えますね。あの石の鳥居が見えますか。あの鳥居は天草・島原の乱が起きて、その約50年後にここに建ったのです。勿論、建てた者はそう潜伏切支丹。彼らは他にわからないように「あんめんりうす（アーメンデウス）」と唱えていました。そして江戸時代のこの崎津集落の人は踏み絵を拒絶せずに審議を免れていたのですよ。どうやっていたかという足の裏に紙を貼って直接マリア様を踏まないようにしたり、踏んだ足を洗ってその水を飲んだりと集落の者が全員で工夫したのですね。この約600人の集落の中で550人が切支丹でした。

この状況と似た場所があります。この崎津から真東の人吉球磨という場所に隠れ念仏者（一向宗信者）がご禁制の世にあつて同じ様に自分たちの信仰を守ったのです。

天草にキリスト教を布教したのはアルメイダ、永禄9年（1566年）ですが、人吉の一向宗禁教令がその11年前です。西郷さん、せごどんも切支丹や一向宗禁教令はよくよく知っていたのでしようねえ。この隠れ念仏の資料館は山江村の

役場の近くにありますが、今回はそこへ足を延ばして下さいませ。本日はありがとうございました」と、私が案内人なら言うね。

（宮原信晃）

和洋4楽器と歌の共演

第22回割り勘コンサート

4つのちがう楽器と歌を
合奏したら、どういう音
楽になるのか。異種格闘技
戦のようなコンサートが5
月20日に、八代市日奈久
で開催された。主催は「割
り勘コンサート実行委員
会」。

演奏者の出演料も含めて
コンサートに必要な費用す
べてを参加者一同が割り勘
で負担しようという趣旨で



ハンドフルート（高山大知さん）。指をつかいフルートに似た音を出す



尺八（田嶋直さん）



キーボード（宮嶋のぞみさん）



ソプラノ（山口純子さん）



ギター（山口修さん）

はじまり、今年はその22回
目であった。それまで、金
波楼、あたらしや旅館な
どの日奈久の老舗旅館など
を会場にして、建物の歴
史・構造なども知り、日
奈久地区の活性化も図る

との意味を含めてはじま
た。今年は旅館でなく夢
倉庫で開催された。毎年、
5月末に開催される。



昨年にはきつづき今年も
開催される。昨年は「笑
顔」をテーマに、23カ国の
児童の絵画を7会場で展
示した。同じ子どもでも、

同じテーマであっても、国
によって児童によってさま
ざまに表現されることを展
示会で知った。展示作品は
熊本地震の被災地、北海
道などで巡回展示されたの
ち、オランダの学校に送ら
れて、多くの人々に「笑顔」
を紹介する。

今年のテーマは「わたし
からのプレゼント」。世界

の子どもたちは、どんな人
に、どのようなプレゼント
をしたいのだろうか。いま
から、楽しみである。
応募資格は15歳未満の
世界のこどもたち。ただし
1人1枚。用紙の大きさは
B4版(26×37cm)以内で、
プレゼントしたい相手、応
募者名、都道府県市町村
名、学年・年齢を書く。
主催は坂本住民自治協
会。八代市教育委員会な
どが後援する。

募集中

第2回さかもと国際児童画展



絵の送付先は、〒869
17605 八代市坂本
町坂本4228-24「さ
かもと国際児童画展」。締
切は7月15日。



昨年のオープニングセレモニー



昨年の道の駅坂本での展示の様子

水俣市で研究発表会

不知火海・球磨川流域圏学会

6月2日、水俣市環境アカデミアにおいて、同会は平成30年度の研究発表会を開催した。高岡利治水俣市長の来賓挨拶のあ



会場（水俣環境アカデミア）

と、正岡裕子さん（水俣市生涯学習課）が「梅北の乱の時期の水俣城」をテーマに基調講演をおこなった。平成21年度から発

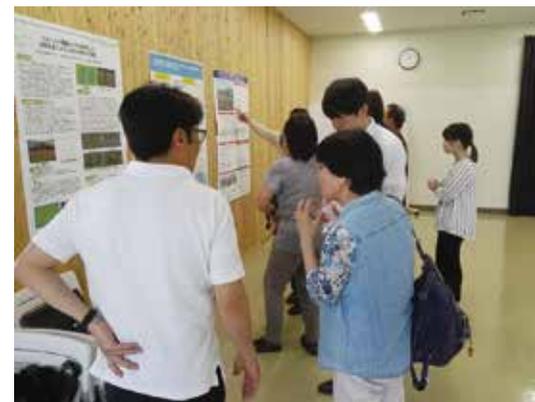


基調講演をおこなう正岡裕子さん



高岡水俣市長

掘調査を実施し、石垣の累線が複雑で城跡近くに石垣の石切場があること、慶長12年銘の瓦が出土したことから佐敷城、宇土城との類似性が推測されることなど紹介した。その後、6名が個別の報告をおこなった。ロビーを利用したポスター発表もあった。基調講演・個別報告の内容は同学会の学会誌に掲載される予定である。



ポスター発表



七夕を詠む



いわさき楊子

落ちて来て露になるげな天の川

(漱石30歳)

これはこれは、熊本弁を使う漱石先生を発見か。熊本ではよく使う言い方だ。「げな」は「らしい」の意味がある。いやいや江戸っ子の漱石先生が熊本弁を使うはずがない。「涼しげな」と同じ「げな」の使い方なのだ。「露になるような天の川」と読むなら納得がいく。明治時代はいまとは異なる助詞の使い方をした。

このことと直接関係はないが「小学校令施行規則」で今日の平仮名の五十音に統一されたのはこの三年後。近代は日本語の過渡期にあった。

別るゝや夢一筋の天の川

(漱石43歳)

影二つうつる夜あらん星の井戸

(漱石30歳)

めずらしくロマンティックな句を見つけた。2句目は井戸に織姫星と彦星が写っているようす。俳句には星合ほしあひという美しい季語がある。星逢う夜、星の契、星の恋、星の別れなども七夕のこの季語。

病んで夢む天の川より出水でみずかな

(漱石43歳)

漱石はこの句の年の8月、胃潰瘍の療養のため伊豆で療養を始めた。ところが数日後、修善寺の大患といわれる重篤な状態になった。しかしこの時はかろうじて回復している。この句は回復後の随筆に書かれた句だが、七夕は8月が一般的だったようだ。七夕は秋の季語である。

予報士に一任します星の恋

七夕の笹も願いも燃やすゴミ

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

柳人があじわう漱石俳句

— 27 —

球磨川の駅・ものがたり

河口から上流まで、その駅を訪ねる



連載その⑦ くま川鉄道・新鶴羽駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一

東多良木駅から新鶴羽駅までは1.5 km。線路は直線から百太郎溝を跨ぎ、その支間12・8 mの百太郎橋梁の手前100 m辺りからS字カーブをつくり始める。瀬井第3・第4踏切を過ぎて、植木跨線橋の下を潜ると、その先に新鶴羽の駅が見えてくる。以前、ここには219号線の植木踏切があったが、昭和45年3月からは陸橋に変わっている。



百太郎橋梁



植木跨線橋



植木陸橋上より新鶴羽方面

昔は霧も濃く、この踏切でのバイクや人身事故が多かったとか。今は周囲の畑にはメロンハウスが目立つ。

新鶴羽駅

この駅は、くま川鉄道開業と同時の平成元年10月1日に造られた新駅。この駅の少し先までが多良木町の範囲で、駅は多良木町大字多良木植木1052-3に位置する1面1線の無人駅である。人吉駅からは23 km 350 m、次の湯前

駅までは1 km 510 mの距離にある。駅名は鶴羽の地元名からだが、新の文字はJR四国高德線の鶴羽駅との同名を避けて新鶴羽としたとか。開業当時は原野で国道219号線からこの駅が良く見えたとのこと。今は国道沿いに民家も増え、遠目には見えにくい。

駅の構造は公立病院駅と同様、盛土ではなく

新鶴羽駅

H鋼材を土台にして、その上に鋼鈑を載せて舗装したプラットホーム(約70 m)で



湯前側ホーム



ホーム中央



東多良木側ホーム

造られている。階段は中央に左右2か所、公立病院駅ほどの傾斜はななく段数も少ないが、足が不自由な人には少し気になる。平成27年春にはホームの支柱や壁を、職員らが竹を用いた手作りの風除け壁でリニューアル、さらに装丁を屏風状に和風な感じを出して、地元の日本遺産の存在にも一役買っている。特に湯前寄りの竹柱のその

彫刻模様は、鉄ちゃんのネット紙上でも絶賛していた。このことは、地元生産物としての竹製品の存在をも再確認させられる。また木製の待合用椅子もその雰囲気の一役買っている。



駅名標



現取入れ口 (左)



百太郎溝デザインマンホール

は百太郎堰を横した洒落たマンホール蓋が使用されていた。公園内には地元の俳人、宗像夕野火の「首振ればかわる瀬の音 鮎帰る」の記念碑も見られる。

また当駅の南側、300mのところには古いレンガ煙突を有する恒松酒造本店があり、手前の東多良木駅傍の宮本酒造と同様、産業遺産としての焼酎工場見学にも都合の



恒松酒造本店とレンガ造煙突



太田家住宅

良い駅でもある。

多良木地区に

あることの象徴でもあろう。さらに

南奥の中原地区には旧相良家の家臣で、焼酎製造業(茶

屋も営んだ安政期の鉤屋造り「太田家住宅」があり、その近くに在る多良木菅原神社と共に日本遺産を構成する地域でもある。

〈参考資料〉

- ・盆地を走る駅シリーズ13「新鶴羽」平成21年5月22日 人吉新聞
- ・くま川鉄道「幸せ探し」へ出発 平成29年4月10日 人吉新聞
- ・村田公三郎「球磨地方の自然と生活 昭和54年2月 球磨商業高校 校社会科
- ・湯前線沿線地域振興調査報告書 昭和元年3月 熊本県
- ・インターネット資料



線路を渡る灌漑施設



信号の保守点検

駅の利用状況を聞くと、多良木町での会合等には町民も使うが、15名程度の通学生が主体との返事。この駅周辺を2カ月毎に地元5班の地区で、草刈りなどの清掃作業をしているとのこと。国道からも近く駅の利便性もあり、付近を住宅地として開発する案や、駅利用のためアクセス道路の拡幅、駐車場設置など、鉄道振興への方策案が出さ

れている。東多良木寄りには鋼製の丈夫な自転車置場が造られていた。この田園地帯の線路を跨ぐ灌漑施設として、各所にサイフォンを利用した施設が見られる。途中、駅手前の蓮花寺第一踏切では定期的な信号保守点検作業がなされていた。当駅から219号線を横切り、北へ900mほど先には球磨川が望める。大王橋から上流には、川

鵜の親子が川面にたむろしていた。その先、川がカーブする所に300年前に開削され、上中球磨の1500ヘクタールを潤す百太郎溝

(百太郎が人柱に立った難工事で1710年に完成、全長19km)がある。その公園に百太郎堰の旧取入れ樋門(凝灰岩造)が保存されており、そのすぐ下手には新しい取入れ口が造られている。周辺の道路に



百太郎堰の旧取入れ口

山江村万江、西福寺跡にて

宮原信晃



西福寺跡での灌仏会の朝（5月19日、松本佳久さん撮影）

昨年もだが、今年も山江村は万江地区にある「西福寺跡」という古い阿弥陀如来様がおられる寺跡へ、編集部（ま）さんと一緒にお参りに行った。



阿弥陀如来像（松本佳久さん撮影）

灌仏会（一般には、「花祭り」が有名）という、お釈迦様の誕生日を祝う行事をされていて、この近くの松本佳久さんが甘茶の用意や、お茶の接待もと大忙しの様である。この日はちょうど当誌主幹の上村雄一さんが阿弥陀堂の中におられて取材をされていた。

私は阿弥陀様に「ご無沙汰しております。なんまんだぶつ」とお参りをして、ひよいと左の方を見た。

大きなお仏壇である。中には数本のお位牌があり、元は金ピカのお位牌ではなかったろうかと思える大きなお位牌が目がいった。

「節心院義岳英忠居

士」と読めた。

しかも、金の輝きがある。

これはどう見ても名のある方のお位牌に間違いなし、「（ま）さん、益田啓三さんが書かれた『南無』という本に資料がある筈ばい」と阿弥陀様にも聞こえる程に興奮して伝えた。

阿弥陀堂の中には花御堂（花の屋根で作られたお釈迦様の小さなお堂）があり、誕生仏といわれるお釈迦様がお生まれになり右手をあ

げて、なにやらおっしゃったお姿に、甘茶を3度掛けた。

お売り頂く甘茶を買い求め参道を下って、左膝を立てておられるお地蔵さんにもご挨拶。

「江戸の頃のお地蔵さま、いつもお見守りありがとうございます」と手を合わせてこの場を去った。

それから数日後である。編集長（ま）さんが慌てる様になってきた。

「大変です。西福寺跡のお位牌がわかりました」と興奮している。

人吉市内は九日町にあるつばやの店主、

益田啓三さんの報告書を持ってきてくれたのだ。「万江宇右衛門晶純」という方で、人吉藩相良家25代の長在時代の家老を勤めたお方である。資料では55歳で亡くなり440石のお侍様であった。寛保3年は1743年に亡くなっておられる。その年齢を逆算すれば、生まれたのは1688年。元禄元年、江戸中期ではないか。相良城下はどんな風景だったのだろうか、どんな事件が相良の人々に降りかかったのだろうか。観音寺に肥前（佐賀）から左膝を立てたお地蔵さんが持ち込まれたのは元禄13年。ということは13歳のころに、相良の城下に初めて左膝を立てたお地蔵さんが来て、それ



仏壇の中にあつた大きな位牌

追悼・麦島勝さん

5月17日、八代市で没。享年90歳



麦島勝（むぎしま・まさる）

昭和2年、八代市生まれ。熊本県立熊本工業学校機械科卒業。昭和20年、復員後は技術者として工場に勤務する傍ら、余暇に写真を撮り続け、写真家として活躍。（八代市立博物館未来の森ミュージアム資料より）

麦島勝の仕事と課題

麦島勝は、2000年（平成12年）5月、写真集「球磨川と50年」を世に問うた。昭和20年代の写真をまとめた冊子と昭和40年代の写真をまとめた冊子の2冊本であった。前者はモノクロ写真、後者はカラー写真でまとめられている。昭和20年代と昭和40年代を対比し、それによつて時代の変化を視覚的に示そうという意図がそこにはある。モノクロ写真とカラー写真の2冊組の採用は偶然ではない。問題は、そこにお

いて麦島が、いつたい、どのような問題関心をもっていたかにある。本人の言葉を借りれば、2点あった。

第一に、貧困からの脱出である。麦島は次のようにいう。

「終戦後、復員してきた私が見た故郷はあまりにも荒廃していました。荒れ果てた町や田畑、家の心の心もなにもかもすべてが貧しかったのです。ここから今の日本の復興がはじまります。（写真を見て）球磨川流域のうつり行く姿を見て頂きたいのです。そして、現在ある豊かなくらしに行き着くまでの先人達の努力を知って欲しいのです。」

第二に、川と人間の関係性の再構築である。麦島は言う。

を少年の頃にみた筈。大人になって、相良家の家老になり、自分の自宅近くの西福寺の山門の入り口に左膝のお地藏さんが欲しいと、相良藩のお抱え石工の松尾傳六か、もし

くは五日町の石工作右衛門に左膝を立てたお地藏さんを依頼したのだろうか。ひと山こえた山田の高寺院の北には五日町の作右衛門作のお地藏さんがおられる。それは、この

家老様が亡くなって10年後である。ひよつとして、西福寺跡の山門入り口のお地藏さんは、殿のお抱え石工の松尾傳六の作かもしれない。松尾傳六は神瀬の住吉神社の石の鳥居を、家老様が亡くなった翌年の寛保4年に建てて

万江長矩の後妻	正徳三年（七一三）	蓮池院命覺法延大姉	羽月新平の娘	於菊	延寿庵跡
万江兵太夫長純の妻	正保二年（六四五）	安室春泰大姉	七二歳	龍四百四十石	村上左近事件の犠
万江典純の妻	死者	延寿庵跡			
万江長矩の妻	文化九年（八一二）	右衛門娘	延寿庵跡		
万江要助源則澄	貞享三年（六八六）	春窓院殿寶巖妙珠大姉	於助	相良長秀の娘	延寿庵跡
万江宇右衛門栄純	慶應四年（二八八）	三要貞玄居士	龍	四百四十石	四三歳
万江甚之九	安永八年（二七九）	照照院靈澤月機居士	龍	四百四十石	家老
万江宇右衛門品純	宝永四年（二七〇七）	秋岳桂雲信士	村山墓地		
万江栄純の妻	寛保三年（二七四三）	節心院義岳英忠居士	五五歳	龍	四百四十石
万江宇右衛門典純	在代執政	延寿庵跡			
老	延寿庵跡				
文化元年（一八〇四）	慈明院法室浄眼大姉	龍	四百四十石	八一歳	延寿庵跡
正保二年（六四五）	直指院見嶽哲性居士	龍	四百四十石	四一歳	長寛代家
寛文九年（六六九）	天岳善住押定尼	一三歳	村上左近事件の犠牲者	延寿庵跡	
天明四年（二七八四）	春山慶	禪定門	延寿庵跡		
万江武純の妻	久品院壽澤妙長大姉	龍	四百四十石	六六歳	今村喜右

益田啓三氏著『南無』より

【みやはら・のぶあき／FB
お地藏さん調査隊代表・人
吉おおくま座の会事務局】

た。鳥居を、家老様が亡くなつた翌年の寛保4年に建てて



麦島さんは晩年には、八代駅前の喫茶店「ミック」で前山光則さん（作家）、森山学さん（熊本高専教員）、石原浩さん（八代市立博物館学芸員）と写真集の出版・展示会の準備のため打ち合わせをしていた

「昔から、川は人々のくらしを支えてきました。川から水を引いて農作を行い、川の魚を食べ、川で遊んでいました。（ところが）人々のくらし方も考え方も大きく変わっています、……（そこで）球磨川の半世紀を検証し、これからの、新しい

川と人の関係を考えます」。

前者は平凡な指摘にみえるが、よく考えてみると、「豊かさ」とはなにかという根本的に問題にかかわっていてそれほど単純ではない。大量生産大量消費の物質文明を麦島がどのようにみていたかは別にして、カラー写真版を見るとき、源流地、釣り、遡上する鮎を写しつつ、多数のダム・堰の写真も紹介し、電力を生み出す近代的措置の代表者としてのダムの存在価値を肯定的に受け止めているようでもあって、自然世界の重要性を強調しつつ、それを阻害する状況も否定しないという、ひどくわかりにくい。矛盾するものを同時に肯定するといった「豊かさ」についてのアンビバレンツ態度がし

めされているようにみえる。そうしたアンビバレンツは、現在でも、多くの人が知らず知らずのうちに使用しているやり方で、現実社会にそうした要素が含まれていることの反映であるともいえる、もちろん、この問題一点に固執して議論を進めても生産的ではない。ここでは率直に戦争直後の状況との対比で「豊かさ」を実感するまでに日本社会を頑張ったと素朴に理解してよいようにみえる。しかし、そうではないことは第二の課題の設定にみられる。

つまり、川と人間との関係は以前とはちがうものになっているとの認識がそこにはある。写真家・麦島勝がそのことについてどのようにみていたかは写真をみるだけでは直ちに分からない。おそらく麦島とし

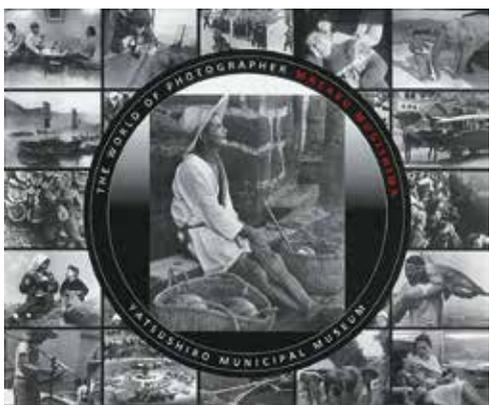
ては状況の変化を記録することにひとまず力点を置くことにしたのであろう、記録者としての立場を徹底することにしたのであろう。変化する状況を記録しつつ、そのことを通じて、川と人間の関係を再度構築しようとしたのであろう。俗的にいえば「温故知新」になる。い

れにせよ、「豊かに」なる過程は球磨川が大きく変貌する過程でもあった。古い時代の素朴の関わり方はなくなっている。人々の価値観は多様になっている。それを率直に受け入れたうえで、川と人間の関係を再度考えてみようというのが彼のスタンスであるようにみえる。それ

は本誌の課題と重なる。今月号では、彼が特に関心を寄せた「筏流し」に注目し、それに関係する写真などを紹介する。いまは失われつつあった仕事であるが、それに注目することによって、なにがみえてくるであろうか。

写真家・麦島勝は5月17日に逝去した。享年90歳であった。謹んで、ご冥福をお祈りする。

この展示会が最後の展示会になった。麦島さんの写真は球磨川に限定されていない広がりがあった。その全体は味わい深い魅力に満ちている。それについては別に検討する。



写真家・麦島勝の世界

2016.10.21[金]—12.4[日]

八代市立博物館未来の森ミュージアム



生前最後の写真展となった2年前のチラシとチケット

〈文中敬称略〉
(春秋)

“あの時”を撮り続けた 麦島勝氏のこと

熊本産業遺産研究会 松本晋一

先月5月17日に90歳で亡くなられた八代の市井の写真家、麦島勝氏のことを記録しておきたい。



大築島調査時に（平27.11.29）

最初の氏と私との出会いは、恐らく氏の人吉方面撮影の折、駒井田町の花田桂助先生宅訪問の帰り、八代での写真展の会場などであったかと思う。

特に協力者の前山光則氏（私の後輩で八代在住）とのご縁もあり、写真集の中でも、乗り物、特に自動車やバスについては、お二人に「ぜひ、クルマ、船、鉄道など乗り物特集企画展を」と常々お願いしていた記憶がある。

また、平成18年の熊日主催「昭和の思い出・写真展」に応募したところ、昭和34年頃、父の撮影した大工町写

真2点も入選させていただいた経緯もあつた。

同じく八代の鉄道写真家、小澤年満氏とのご縁では、小澤氏所有の地元八代の産業遺産の一つ、艦上爆撃機「流星」の風防装置製作に、麦島氏が学徒動員で携わっておられた内容を取材、八代の産業のすそ野の広さも知ることが出来た。

そんな中、写真集「昭和の貌」が熊日出版文化賞を受賞されたこともあり、その出版祝いも兼ねて、平成26年10月、十年振りに開催した第8回球磨川アカデミアの企画では「熊本の写真を楽しむ、写真で語る」のテーマで、麦島氏と前山氏をお迎えして、テーマトーク「球磨川を撮り続けて、残したい写真、写したい写真」のお話を聞く会と写真展を企画した。まだ

まだあの頃はお元気で、氏から写真撮影のコツ、ポイント等をお聞きした経緯がある。その時、併せて「人吉繁盛期」の写真撮影した明治の写真家・小川二眞の「人吉繁盛期の写真に見る明治の人吉」も作製紹介した。

氏の写真術のポイントは、その時代、その当時の生活を、その在るがままに被写体を写し撮るところにある。その無垢な表情、繕いのない雰囲気は、これは恐らく、氏の撮影時の表情、顔あへの目の優しさによるものであろう。



「熊本の写真を楽しむ、写真で語る」抄録集



十島文庫にて（平成26年10月26日）

なかなか、あの昔の重い一眼レフを構えてでは、サツと「はい・パチリ」とはいかないものであるはずなのに、それが素直に、自然にフィルムに顕われているのは、氏の性格そのものではないであらうか。

また、氏と共に写真撮影に同行したのは、最初は熊本産業遺産研究会

での旧日本セメント八代工場の閉鎖に伴う大築島の見学会（平成17年10月29日）、そして同じ大築島を10年後の平成27年11月29日に記録した時、次いで平成28年4月の人吉石野公園での熊日写真撮影会の時であった。あの時は日本橋で買ったばかりの昔のポケッタカメラで白黒フィルムを使った憶えがある。その時の氏の撮影の仕方は、何も構えずに、サラッと愛用の小型望遠デジカメを使っておられていたことを思い出す。

氏曰く「風景を写し撮ること、それは時を絡め取ることです。写真機というものが発明される以前から瞬間の風景を何らかの形にして、永遠に留めておきたいと願ったのです。（中略）われわれはデジカメ付きケータイという道具を手に入れた。気軽に風景が写し撮られ、たくさんの瞬間が小さなチツ



「筏流し」 撮影者／麦島勝
 撮影場所／八代市萩原町 旧萩原橋下流
 撮影年月日／昭和25年(1950)5月2日
 (八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵)

静かなる芸術写真

八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員 石原 浩

麦島勝氏との出会いは、私が八代市立博物館建設準備室に勤務しはじめた平成2年、「八代の今昔」の取材で氏の自宅を訪ねたことにはじまられた写真のなかでひととき印象に残ったのが「筏流し」。それは荒瀬ダムが完成するまでの球磨川の風物詩であっ

た。時代とともに変容する日常を撮り続けた麦島氏の写真は、「記録写真」としても高く評価されるが、あの時私が感じたのは「芸術写真」としての魅力だった。球磨川の「静」と「動」が対峙する構図のなか、筏の舵取りをする船頭たちの「緊張」が画面を支配する。とはいっても船頭の姿は小さく顔も見えない。緊張は微(かす)かにしか伝わらないのだが、この「微か」の匙加減にこそ、麦島写真の魅力があるのだろう。

氏の写真を見る者は、その「微か」を汲み取ろうと無になる瞬間、先の写真でいうなら水飛沫の音や冷たさに触れたかのようなリアリティを体感するのである。私にとつての麦島写真は、この時以来、静かなる芸術写真として存在し続けている。

【いしはら・ひろし／八代市】



テーマトークでのお話 (就職列車)

くのあちこちで写真を撮つてゐる時に、深田あたりで出会つた経緯があり、それからの縁である。彼の写真は芸術性をねらつたものではなく、記録性のある普通の写真を撮つておられたようだ。でも、氏は舶来のカメラも数台持つておられて、恐らく芸術写真も大分撮られていたのではないだろうか、しかし、写真の役割とは結局は、彼のような記録性にあるのだと思つ」と。

勿論、氏の著作「球磨川の50年」(2000年建設省)「川の記憶」(2002年葦書房)、「麦島勝写真集」(2005年八代市立博物館)、「昭和の貌」(2013年葦書房)、「写真家麦島勝の世界」(平成28年八代市立博物館)の中には優れた生活の記憶、歴史が秘められている。さらにそれらをテーマ別に光を当てれば、そしてそれに背景解説と索引を付ければ、この

球磨川流域、八代・水俣・天草・有明海流域のその時代のすべての情景が蘇つてくるのではないだろうか。

これからの氏への追悼企画として、ぜひ、八代市立博物館には「麦島勝の写真語る」などと題する追悼シンポジウムや追悼企画展をお願いしたいと個人的に願つている。そして氏の写真クラブ「ざぼん」の愛弟子、森口昭十四さんには、その場で麦島写真術についてのトークも、ぜひお願いしたいものである。

今秋開催予定の第12回球磨川アカデミア「演芸を語る」では、氏の撮影した「大道芸 門付芸」の写真を紹介してみたい。

〈参考資料〉
 第8回球磨川アカデミア抄録集「熊本の写真を楽しむ、写真で語る」平成26年

麦島さんのこと

画家 坂本福治

麦島勝さんは、私より10歳年上。ある雑誌社の編集会議で度々顔を合わせた。いつも柔和な表情で、強い自己主張をされる人ではなかった。だから、何かについて激しく議

論した記憶もない。しかし、麦島さんのシャッターチャンスのとらえ方は抜群だった。膨大な作品集の中から、私好みの作品を挙げてみたい。その一。一台の自転車で八俵の炭

俵を運ぶ場面。

次は現在も、ほぼ昔のままの姿で残っている「立岩」という旧深田村の球磨川べりの岩の風景。まるで江戸時代の版画がそのまま残っているような作品。登校する学童は、油紙の傘をさして、右の手には和紙の原料である楮（しゅ）の皮を持っている。家族が夜、なめして皮をむいたのを、小学校近くの紙漉屋に届けるのだった。

劇的なのが散髪場面。「痛かー」と泣き叫ぶ声が聞こえる。兄は容赦なく「じっとしとれー」と言いながら、バリカンを進める。

麦島さんが残したものは、計り知れない。合掌。

【さかもと・ふくじ／人吉市】



人吉市にて。左から麦島氏、中村幸子さん、私



「立岩」昭和25年、球磨郡深田村（現あさぎり町）撮影／麦島勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

懐かしき一景

木崎康弘

何気ない風景写真に懐かしさを覚えることがあります。その一景が、麦島勝さんの「立岩」です。それ

は、球磨郡あさぎり町深田西の県道三三号人吉水上線の路肩、球磨川沿いに立つ奇岩。

かつて大根

や木炭を荷にした舟が八代方面に下った船着場の跡でもあり、井上微笑が「大根舟 続く炭舟 下り舟」と詠んだ、ちょっとインテリ

そんな場面を惜しげもなく、被写体に収めた麦島の眼差しは、まさに人間愛そのものです。大通峠越えで実家に帰る時、いやが応にも目に入ってしまう、何とも言えない安堵感を覚える場です。そんな次第からこの一景を選びました。

【きよき・やすひろ／熊本市】



現在の立岩と、井上微笑の歌碑（下）



とインテリ

安楽院をあるく

森山 学



写真① 水田のなかに建つ安楽院

懐良親王を征西將軍とする南朝の征西府は、正平二年（一三四七）、八代市の高田地区に着岸、十日間ほど滞在したのちに、北上したと伝えられている。一時は大宰府を手にした征西府だが、やがて形勢が逆転し、元中七年（一二九〇）には高田地区にもどり、九州南朝、最後の征西府をこの地に築く。高田地区の「宮園」に、高田御所ならびに征西府の跡が残る。この歴史ある地には、古い伝承や由緒ある社寺、昔ながらの路地が今に伝わる。

今回めざす安楽院も、高田地区の

歴史の一端をうかがうことができるお堂である。バス停「高田記念碑前」から徒歩四分、田園風景のなかを井手（用水路）に導かれるように進む。やがて、水田のなかを一本の参道が伸び、木々に囲まれて、ぽつんと建つ安楽院が見えてくる（写真①）。

安楽院は、湯屋山中光寺廢寺跡である。字名は「中光寺」である。

山号の「湯屋」は、温泉が湧出していたためとされている。また『高田の史跡』では、「ゆやさん」を「熊野山」と読み替えて、やはり南朝に由来するとの考察も述べている。

中光寺は真言宗で、京都・醍醐寺三宝院の直末院であった。また相良家臣で、平山城主であった桑原和泉守広政の祈祷所でもあり、平山城の北東に位置し、その鬼門封じでも

あつたと伝えられている。

平山城は古麓城の第一の支城で、築城は八代荘地頭・名和義高の代官・内河義真による。九州南朝の最後の砦となった古麓城にとって、また高田御所を北に古麓城、南に平山城が守護する点においても、重要な城であった。南北朝和睦後には、平山城は、相良氏による名和氏攻略の拠点となる。戦国時代、相良氏が八代を統治した時代の最後の平山城主が、桑原和泉守広政であった。

小西行長による八代統治時代に、それまで大寺であった中光寺は焼失する。その後再興を果たせず、村民がお堂を建設して本尊を安置し、山伏が堂守を務めて安楽院となる。



写真② 参道から見る

現在の安楽院の本尊・木造薬師如来坐像は、焼失を逃れた中光寺の本尊と考えられる。これは平安時代後期の作で、五十年に一度だけ開帳される秘仏である。

さて、それでは参道から先へ進みたい（写真②）。参道の一對の標柱は



写真③ 正面から見る

大正十三年（一九二四）の寄進である。お堂は参道の先に美しく建つ（写真③）。

正面は柱間の数が三間あり、両端の柱間は短い。両端の柱間は格子窓であるが、板がはめ込まれているた



写真⑥ 堂内

建物は石土台の上に建ち、内法長押と切目長押で柱をつないでいる。正面と側面に縁側がつく。

続けて内部（写真⑥）を拝見しよう。お堂の手前にある外陣は、四畳



写真④ 半部

め、外観からはそれがうかがえない。中央は「部戸^{しほみ}」とよばれる建具が立てられている。部戸は、はね上げ式で開閉する格子の建具で、開け放しておくには天井から吊り下げた状態とする。ここでは上半分のみをはね上げているから、特に「半部^{はんぶ}」とよばれるものである（写真④）。

正面中央に参拝の場として、片流れ屋根の向拝^{むかひ}を設ける。向拝柱の組物は大斗肘木である。



写真⑦ 丸柱の上の出組。黒い帯が連続しているものを蛇腹支輪とよぶ

の広さである。内陣は上段になっていて、床が一段高い。ここに護摩壇が配置されている。

仏壇は、前柱を直径十八センチメートルの丸柱とする。前柱の上の組物は、出組とする。この前柱と同じ柱筋に立つ外周両端の柱にも、内

屋根は四角錐をなす「宝形造」である。反りがわずかであるため、ピラミッドの形状に近い。通常、宝形造の場合、頂点に宝珠を頂くが、ここでは短い棟瓦とする。現在は棧瓦葺きであるが、本来は茅葺きであったとも考えられる。

軒は垂木を二段階にせり出しており（「二軒」と呼ぶ）、そのため軒が深い。ぎゅつと引き締まった身舎から伸び広がる軒が、美しいプロポーションをなす。

側面（写真⑤）の長さは正面とほぼ同じで、正方形の平面である。側面の柱間もやはり三間あるが、各々の長さは



写真⑤ 側面から見る

奥へ行くほど短くなる。手前の一間目が外陣、二間目が内陣、奥の二間目が仏壇に相当する。さらに脇仏壇が背後に突出する。

部にのみ出組が組まれている。この四つの出組とともに、この仏壇正面の柱筋の上部には、蛇腹支輪を並べており、これにより境界としている（写真⑦）。

仏壇には、秘仏の本尊を安置する厨子の前立に、同じく薬師如来立像が安置される。脇仏壇は後方に下がり、木造十二神将などが安置されている。

また堂内には、護摩供養を執り行った二枚の奉修札が保管されている。弘化三年（一八四六）二月と慶応元年（一八六五）十月のものである。みなさんもこの美しい宝形造のお堂を拝みに、ぜひお出かけください。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

八代市坂本町松崎地区



坂本駅。朝と夜には鹿が出没する



夜の坂本駅



左右に坂本の重要施設が並んでいる

坂本駅 八代市役所坂本支所 コ
ミュニティーセンター、肥後銀行、郵
便局、消防署、派出所、医院、本
田商店など坂本町を代表する施設が

集中している地域である。そのため、他所の人はこの地区を「坂本地区」と誤解する場合が多い。坂本橋の存在も誤解を招く要因であろう。「坂本地区」は製紙工場のあった付近の地域をいい、坂本駅周辺のことではない。地名の由来は確認していないが、なんでかんで「まっ先(まっさき)」



ここも松崎地区

にするのでその名がついたと、坂本公民館報に西福寺(鮎婦)の先代住職・故山本一夢先生が書いておられた記憶がある。冗談の文章だが、まんなら出鱈目ではない。八代干潟の干拓が始まって、その干拓地に最初に入植したのはこの地区の人々で、八

代市松崎町がその地である。明治41年6月1日の肥薩線開通の当初から坂本内では唯一駅ができた地区でもある。

グリーンパーク、支所、コミセンなどの場所は製紙工場ができるまえは滑らかに傾斜した場所で川原(コラワラ)で川船のたまり場であった。工場完成後、その産業廃棄物(「ガラ」といった)はこの土地に捨てられて埋め立て地になった。廃棄物の捨て場所にグリーンの名のつく公園があるのは偶然であろうか。

(春秋)



グリーンパーク。坂本ふるさと祭りはここで開催される

新・日曜釣り師心得⑦

猫からのお土産は 宮原赤竿

私は猫アレルギーである。

我が家には高齢の猫がいて、今年で23歳となる猫と一緒に暮らしている。

実は私は今から6年前に深夜から咳き込むようになった。夕方にも咳が出て胸が苦しくてひどく痛んだ。

T内科「アレルギー性の喘息です



炎天下の岩場にはパラソルを

ね。血液検査では猫が原因です」との診断。

A耳鼻科「アレルギーですね。猫ですよ」と教えてもらった。

二つの医療機関が猫には近づくなとおっしゃる。

同じ屋根の下に暮らす猫と私は出て行け！と言われれば猫ではなく、私が我が家から追い出されるのだ。

これはたまらんと、鼻を手術することで咳も猫アレルギーからも逃げ出せると思い、熊本の病院で鼻の手術をもらった。手術後、咳も治まり猫との共同生活も無事に来る

ようになっていた。

「ミャ〜オン」、はいはいエサをあげましょうね。

鹿児島県最北端に浮かぶ島を獅子島という。

獅子島へは水俣の丸島港から瀬渡し船で40分も海上を走ると着くのだが、今日はその船が出ないと聞いて、陸路で長島へ向かった。

人吉から芦北町、そこから2本の高速道路を乗り継いで長島の黒之瀬戸大橋を渡って右折。そこから30分走って伊唐島の「しんよう丸」という瀬渡し船が出る港まで着いた。人吉から深夜飛ばして2時間30分の道のりだ。

話し相手もいなくて車を運転しつつブツブツと独り言の車内なのである。

すでに明るくなった早朝5時に船は出た。

獅子島の南東部に位置する前島という岩場に降りた。

隣の磯では大きな竿を振り大きなカゴの仕掛けが約50mは飛ぶ光景が

朝陽の中に見える。私といえば、いつもの細い竿で、細い仕掛けでマキエサを足元に撒いて、お魚さん来て

ネエ〜とばかりに小さなウキを沖へ飛ばす。

1時間ほどした時だった。

「ミャ〜オン!」。どこかで聞いたことのある鳴き声。

後ろを見ると、黒と白の模様の猫であった。捨て猫がいたのだ。そうかエサの小魚がほしいのかと、小魚のベラを猫に放り投げると、逃げる



捨て猫クロちゃん親子〜ミャ〜ン

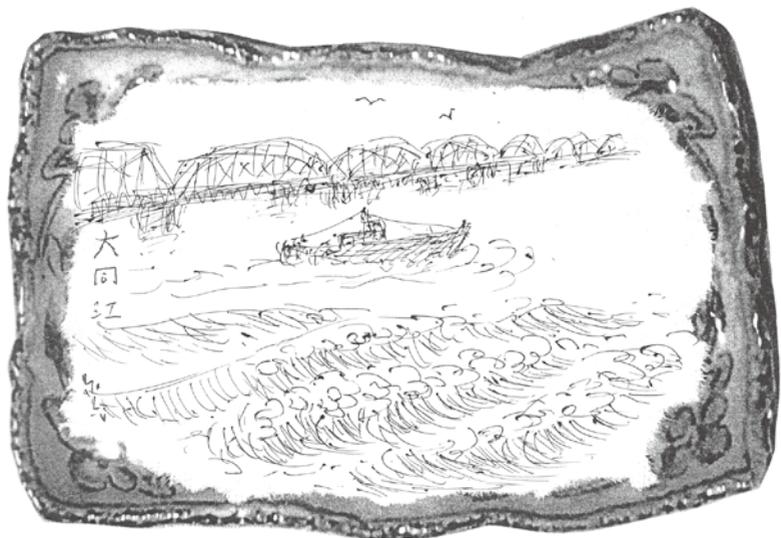


大ベテランの磯釣り師、84歳と88歳

記憶の落し穂

その ②⑥

絵と文／坂本福治



遠い日の筏いかだ

今、平壤ピョンヤンは歴史に残るような、大きな流れの中にある。どうか、悲しみの方向に向かわないように、祈るばかりである。ここに生を承けた者にとっては、容赦なく、心のふるさとである。

平壤の中央には、大同江という大きな流れのゆるやかな川がある。大同江には、鉄のアーチが十個つらなっていた。潮の満ち引きの影響を受け、砂浜ができる、よくシジミ取りをした。砂の上に小さな穴があると、人差し指をつっこむ。たいていシジミであった。うすよこれたポンポン船が通過すると、しばらくして、幾つかの波が押し寄せて、ビククリさせた。筏が川岸にたくさん停泊していた。母には洗濯に都合が良く、近所の友達と三人でついで行ったことがあった。私たちは、筏の丸太の上を渡り歩いて遊んだが、いつの間にか筏が岸を離れはじめていた。親子ともパニックである。そこへ、日焼けした体の大きな筏師が、何も言わず、子どもを豚の子のように両脇にかかえて岸に運び、母を背負ってきてくれたのである。七十数年前の事だった。

【なかもと・ふくじ／画家、人吉市】



お土産のノミの痕

けれど、すぐ立ち止まって戻って来て、ベラをくわえて元の場所に持ち帰り、パタパタ動くベラを遊んでいのように食べるのだった。

何か、すごく良いことをしている気になって来た。

もう1時間して後ろの猫をみると、何ともう1匹、子猫が増えて2匹でミャ〜ン！の合唱なんである。何とか2匹分の魚を釣ろうと頑張つて竿を振った。

それなりに小魚を釣っては親子の

猫に与えていると猫たちは姿が見えなくなり、もう満腹なんだろうと、安心したら眠くなった。

朝からパラソルを広げて岩場が暑くならないようにしていたので、お楽しみのお昼寝。救命具に上着や腰バンドを岩の尖った場所に乗せて、ゆっくり背中を岩場に付けていく。背中に下から押し上げる圧力が指圧の気持ち良さ。後頭部、背中、腰と足の後ろには全身治療中の超々気持ち良い〜って感じ。

どれくらい寝たのだろう。

トンビの鳴き声やカラスにうぐいすの鳴き声で目が覚めた。

手首、首周り、後頭部が何だか痒いのだ。手首から袖を上げて腕を見て見ると、赤い斑点が見える。それが痒いのだ。痒い痒いと手首を

掻きながら人吉へ帰宅した。

猫のノミ？と帰宅してから気づいた。入浴後、痒い場所を見ると赤く腫れていた。

夜寝ていても全身があちこち痒いのだ。

「ミャ〜ン」と我が家の猫の声を聞くと、もつと痒くなるではないか!?

やっぱり、私の猫アレルギーは治ってなかったのだ!

ふとんの中で暖まると、猫のノミの痕あざが痒くなるのだ。

猫の親子からのお土産をもらって3日は痒かった。今頃はどうしているのかなあ。

【みやはら・せつかん／熊本飛翔会会長、人吉市】



上杉芳野の「あがつ段」②④

これからが私達の時代

私達も結婚して早45年になる。

結婚した頃はお互い本当に可愛かった。体型も太つても痩せてもおらず、言う事もする事も純情そのものだった。

主人の誕生日のプレゼントは手作りの品と思っていた

から純毛の、あの頃7千円ぐらいの毛糸代でセーターを編んだ。ずっしり重たいけどとても温かい、愛情いっぱいプレゼントのセーターは今でも大切にしまっている。

もう一つの思い出のプレゼントは編み棒で編んだ長い

長いロングマフラー。

今では我が家の愛犬の犬小屋で布団代わりに活躍中であつたが、あまりにも毛だらけで汚くなったので内緒でゴミに出した。

主人からの私へのプレゼントといえば、必ず3千円程のケーキーをニコニコしながら「はい誕生日おめでとう」と手渡してくれていた。

私が「こぎゃん大きかとお金も高かるけん、もうよかよ」と言つたばかりに買つてこなくなつた。

それからは田舎に帰ると私の誕生日が6月1日からの鮎の解禁日なので必ず鮎釣りに行き、ピチピチ動き



デイサービスや、お出かけ前にお化粧してやると喜ばれる。今は仏様みたいなお母さん

飛び跳ねる鮎が私へのプレゼントとなつた。

それが今は、私が主人にするのは赤飯か混ぜめし。

主人から私には「はい、誕生日おめでとう」言いながら缶ビール2缶と枝豆。ちゃんと私のコップを出してくれる。

私も新婚時代は「ありがたい優しい人ね」とうつつり

していたのだが今では違う。

ウブな可愛い時代を乗り越えて根性に根が生え「自分が飲もぐたるで買って来たくせに、昔はケーキーのプレゼントや外食に連れて行つてくれていたのに、このケチン

ぼー」とは決して口に出しては言えないが、心の中で思うこの頃である。

3月に主人のお父さんが

亡くなり私達へ託された時代が来た。

あの頃は花を植えても引き抜かれ、キンカンの実を取りに行くといつの間にか切つて捨ててあつた。

何かの間違いかと何度も何度も思った。

母の病気のなせることと、私達夫婦は辛抱してこれまでやつてきた。

今では母に買い物行くよというニコニコ顔で一緒に行くようになった。

主人も「初めての野菜作り」という本を買つて来た。いろんな苗を植えて毎日

の成長が楽しみのようだ。「お母さん、今度は花の

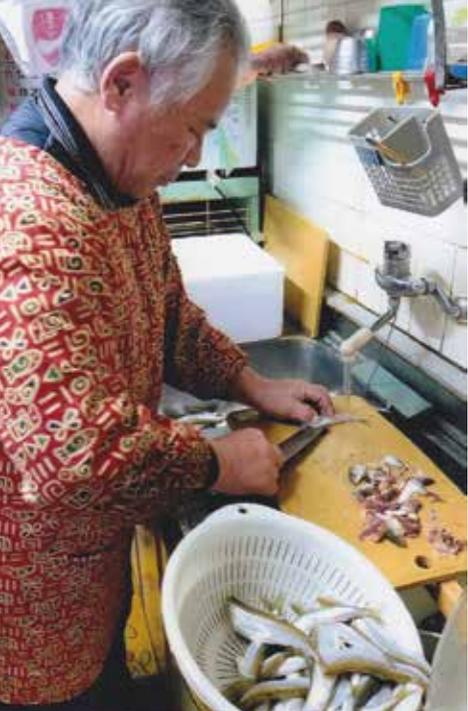
苗買つて来て一緒に植えようね」というニコニコ顔になつて喜んでくれる。

主人との昔の熱々の愛情は抜けてしまった二人だが、これからは本当の夫婦であり、亡くなった父からバトンタッチされた私達の時代である。

「お父さん、お母さんの事は心配せんで良かで、ゆっくり天国で休んでね。

今までありがとう。やさしくて、やかましかつたけど、お父さんで良かった」。主人と共に感謝ばかりの毎日である。

【うえずぎ・よしの／ボランティヤ観光バスガール、あさぎり町上】



北海道から送られてきた魚をさばいてくれる夫の謙ちゃん

天草エアライン「一日1万円乗り放題」挑戦記 (最終回)

産業考古学会航空分科会 松本晉一

この飛行機「みぞか」の一番前の右側座席は、非常口を兼ねて向かい合わせの席になっている。仲間や家族連れには団らんが出来、楽しい席になるかも。そして進行逆方向というマイナスの中のプラスの楽しみも、この席に潜んでいるかもしれない。

9、天草から2度目の福岡へ(第7回飛行)

熊本空港から5時間ぶりに母港天草空港へ。しかし、



対座出来る4席

席名	行先	時刻	状態	備考
AAA101	福岡	07:55		
AAA102	熊本	10:10		
AAA103	福岡	15:40		福岡空港まで?
AAA104	福岡	17:55		

出発便案内ボード

ゆっくりする間もなく、30分後の15時40分には再度、105便で福岡に向かうことになる。

少々疲れながらもカウンターで福岡往復2回分のチケットをもらい、2度目の福岡行の搭乗口に並んだ。

座席は右側8Dへと座る。機内では105便から交代した新しいCAさんより機内説明、そして福岡の新観光案内をもらい、しばし旅行客気分に入る。機は6時間ぶりに再度、博多へと向かう。離陸後、右手真下にはジャパンマリンユニテッド(旧日立造船)の長洲工場、大牟田の三井グリーンランドがしっかりと



交代したCA嬢の説明



福岡便搭乗口へ

と見て取れる。

機は朝のコースと同じく、背振山を越え、有明海に出るから、右旋回、博多湾上空から海の中道を横切り、福岡空港へと着陸。直前の博多港では停泊中のイタリア・コスト社の旅客船が良く見える。着陸後、再度バスにてターミナルへ。しかし今回は手違いか、乗継口ではなく、一般乗客と同じ出口へと案内され、一旦外に出るから、再び出発ロビーの混雑するビル内を急がされ、時間を口とする。もうすでにロビーでは、16時55分天草行のチェックインが始まっていた。

10、福岡から天草へ(第8回飛行)

再度、バスにて搭乗口へ向かう。途中滑走路上ではドクターヘリのトレーニングが行われている。天草行の座席は同じく8D、日曜夕方便のせいかわ、乗客は80%と多いが、定時には離陸する。大牟田上空では夕日に映える三井港の産業遺産・三角閘門のゲート(鳥の尾翼部分)がはつきりと見て取れた。再度長洲町上空から右へ旋回、普賢岳を右に見て天草空港へと向かう。空港駐機場には3名のスタッフが再度のお出迎えである。早速、次の福岡行き最

終便の準備で手荷物積み下ろしも気忙しうであった。



長洲の造船所



三井グリーンランド



博多港のイタリア客船



大牟田三井港閘門

11、3度目の福岡便 (第9回飛行)

搭乗9回目の最終便、3度目の福岡行は107便、17時55分発である。乗換時間は25分、売店で自宅用の天草土産を見繕って車に置き、すぐに搭乗口へと並ぶ。お客は約40%程度、座席は前方の4A、左プロペラのすぐ横である。ゲートでは又も「楽しい空の旅を」のボードを掲げたスタッフらが本日最後の見送りに立っている。ドアクローズ後、直ちに非常用の機内説明が開始された。

例のごとく、あつと言う間の離陸。夕暮れの中、左手に坊津、そして3回目の普賢岳も見え始め



最後の福岡往復便



今日最後のお見送り



夕暮れの普賢岳



博多の夜景

る。前便と同様に背振山から博多湾に抜け、18時30分にネオン輝く福岡の街を真下に3度目の福岡ランディングとなる。

そして、35分後には最後の10leg(1leg||足||1flight)目の108便に向かう。今回も「のるだけチャレンジャー10」のメンバーは初回同様、一般乗客とは異なる階段で乗り継ぎ口へ向かう。お土産もチェックせず、その足で7番搭乗口からバスにて機へと向かう。ふと、乗客誘導中の若い男性スタッフに声をかけてみると、や

はりパイロット養成研修の二環での業務とのこと。予想通りであった。バスより機影写真を撮って乗り込む。

12、ラスト・フライト (第10回天草空港へ)

定時の19時10分離陸。夜間で周囲の景色が見えないこともあり、ラストのフライトはあつと言う間に天草空港へ着いたという感じであった。最後の記念写真を撮り「み

ぞか号」と別れ

る。終わりに「連続して搭乗したことを証明します」のボーディングサーティファイケート(搭乗証明書)を頂戴する。

お別れの記念写真

空港ビル内には、もうお客も



夜の到着ゲートへ向かう



人吉への帰途

誰もいない。お土産物を積み込み、これから人吉までの3時間の帰途に向かう。空港を20時10分に出立、もう8時を廻ったことや日曜の夜のせいもあり、1回追越しを駆けただけで、途中の道はスムーズに走れた。しかし、又しても松橋で自動車道へのアクセスを間違えてしまう。それでも自宅に付いたのは10時30分前、ということはお土産から2時間半弱での帰宅。予定ではもう1泊本渡へ泊る日程だったので、翌日はゆっくりと休養が出来た。

〈1日乗り放題の感想〉

- 1、正直、実質1日10回のフライトは少しキツイ。でも、この飛行機に乗るのだからという搭乗のワクワク感、飛行の醍醐味、降機の安堵感は、10回とも変わることにはなかった。途中の居眠りは20分だけ。
- 2、「また乗りたいか？」の質問には、季節にもよるが、乗る目的と視点を変えれば、年に2回は楽しめそうである。空旅をどう楽しむか、乗務員の視点、航空機評価の視点で、多角的にまた乗ってみたい。
- 3、空から見た西日本は、やはり小さな島国であり、海洋国家と呼ぶに相応しい、数々の風景を眼にすることが出来た。
- 4、1日たっぷり10フライトをこの料金で楽しめるのは、空のオタクにとっても垂涎的であろう。(天草エアラン 予約電話0969・34・1515)

終わりに

自分の身体の疲れは勿論だが、天草航空のパイロットを始めとする各スタッフの皆さん方は、19時45分の福岡からの最終便到着から、翌日始発便7時55分の準備まで、離着陸条件の厳

しい空港で、しかも、このタイトな1日10便のスケジュールの中、自分の心身、そして機体の整備調整等と、どうやってこなしているのだろうか？ その年間の運営と管理の大変さが、今回ホンの少々ではあるが、垣間見れたような気がする。またATR42-600の機体とエンジンの稼働時間(滞空時間)も1カ月で1万3千時間、1年では15万6千時間と、その時間数も相当なものだと推測させられた。やはり2年前の新機種交代は止むを得ない決断であろう。

○1日乗り放題のこの空から何が見えたか

- 1、九州全体の広がり、そして狭さ⇨高度3000mで桜島から隠岐の島まで見えてしまう視野の広さ、九州の狭さ
- 2、航空路の利便さ・簡便さ⇨距離と時間感覚の喪失⇨飛んでしまえば、みな同じ⇨道路の見えない高速バスである
- 3、運輸業務の大変さ、路線維持業務の大変さ⇨これは地元のみま川鉄道(湯前線)も同じことであろう
- 4、この九州山脈の奥深い人吉球磨の地こそ、陸路と併せて、航空の必要性を訴えたい。20年前の新聞紙上にも投書したが、その理由は、この人吉に空港があることで、数年に1度は陸路が自然災害で閉鎖されるこの地では、残されたア

クセスが空路であること。九州の各空港と航空路の緊急時の代替・補給基地として、九州山脈の中央に位置する人吉空港の存在と、その利便性は欠かせないと考える。そうして事業用、観光用チャーター機、家用機など、アウト・インバンドを含めて次世代航空路の時代がもうそこまで来ている。

○天草エアラインとくま川鉄道(空路と鉄路との比較)

最後に身近にあるくま川鉄道(湯前線)の鉄路と空路とを簡単に比較してみる。

天草空港から各県庁所在地まで30分という、この便の機動性と利便さは捨てたものではない。もう天草の地元の人たちは、この空路を使い馴れ、多くの都市にすぐにアクセスが出来、その利便さは病みつきになっているものとイメージする。有効な公共交通手段をどう使うかで、今後の地域の発展と衰退が決まりそうな気がする。

この天草エアライン同様、全国的にくま川鉄道をどう注目させるか、利用させるかが課題であろう。この3月のダイヤ改正でJR九州は路線の利用状況から大幅な減便を決めた。

	天草エアライン	くま川鉄道
設立	1998年(平10)	1989年(平成元)
資本金	4億99百万円	1億36百万円
社員数	57名	46名
運営主体	第3セクター	第3セクター
運用	赤字⇨黒字(400万)	赤字(7196万円)
路線数	3路線	1路線
運行回数 [1日]	12回	28回
保有台数	1機	5台
座席数	48席	41~46席(1台)
地域人口	11万5千	8万5千
利点	速い	確実
欠点	天候依存	時間依存
共通点	両社ともに運営現場と経営とが近い 地元の足であり、観光路線である	

地方輸送機関の路線維持の必要性和、これら第3セクターによる公共交通運輸の活用方法については、交通弱者の増えるこの自動車社会の中で、空路も鉄路も、共に公共交通機関即ち共有資本(社会資産)のより良い地域利用と合理化を、何で、どこで見出すかが、カギとなろう。

【まつもと・しんいち / 人吉市】

〈参考資料〉

- ・鳥海高太郎「天草エアラインの奇跡」2016年 集英社
- ・奥島透「日本一小さな航空会社の大きな奇跡の物語」2016年 ダイアモンド社
- ・各種ネット資料…天草エアライン、くま川鉄道
- ・資料協力…天草エアラインKK くま川鉄道KK

水俣城跡訪問記

上村雄一

流域圏学会で正岡裕子さんの基調講演をうかがい、水俣城についての知識不足を痛感し、6月4日、



正岡さんに偶然にお会いする。写真の場所から東側（山側）約1キロまでが城跡。細長い城だったようである

同城跡に向かった。現場100回である。偶然、正岡さんにお会いし、訪問の目的を告げると、「あらかじめ電話していただければ、ご案内しましたのに」とのお言葉をいただき恐縮する。

城の概要を掴むことに目的があったので、城跡内を簡単にめぐる。井戸跡は整備されていなかったが、同所の説明文によると、以前には、井戸跡だけが同地に城があったことを示すものであったことを知り驚く。明治中期まで石垣を確認できたが、その後、破却されたらしい。西南戦争が破却に関係しているのだろうか。現在は、一部だが、石垣の状況を確認できる。城跡の頂上に金比羅宮があった。水俣の漁師さんたちを見守っているのだろうか。水俣



水俣城の井戸跡。高井戸の井戸である。山城では水が生命線になる。この井戸の水脈が気になった

水軍の名残であろうか。

「官軍墓地」もあった。西南戦争で戦死した政府軍の軍人、軍夫、警察官を埋葬した墓地を「官軍墓地」という。熊本県内には21箇所つぐられていて、墓地はいずれも周囲を石垣で囲み、玉垣をめぐらせている。一部を除き、墓碑は埋葬者ご

とに建立され、氏名、階級、所属、死亡の年月日が刻まれている。水俣城跡内にある官軍墓地はそのなかでも元の状態をよく保っているとのことであった。墓碑数は42基。大半は明治10年6月18日の鹿児島県薩摩川内市の高隅山の戦いで戦死した将兵の墓碑であった。位階の高い軍

人を中心にし、位階が下がっていくにつれ周辺部に墓標はあった。6月18日といえば近日である。西郷軍の戦死者を思いつつ手を合わせた

大まか輪郭をみたのち、城跡近くに「最中の美貴」本店に向かい、もなか最中を購入。帰途につく。

【うえむら・ゆういち／八代市】



石垣と金比羅宮（下）



最中の美貴・柳屋本舗（上・下）



くまがわすじの考古地誌

(19)

球磨川筋の弥生時代^①

八洲開発株式会社 木崎文化財研究室長 木崎康弘

(NO.180)

「免田式」をしよう！^⑤ 話題騒然、夏女遺跡の発掘^③

熊本県文化課の園村辰実が分けた、I類からVII類までの七種類の竪穴式住居跡。さらに、ベッド状遺構の有無で、a、bの二種類に細分されたI類と、a、b、cに細分されたV類の住居跡。これら九種類の竪穴式住居跡は、園村がそれぞれの位置関係から、興味深い傾向を明らかにしてはいたが、具体的にお互いどんな関係があったのだろうか。そこで、退屈な話は承知で、それぞれの特徴と見つかった位置を再度整理して、園村の探求を跡付けていってみたい。

I類は、上から見た形が長方形で、

長軸が四・五メートルの、夏女遺跡では大型のものであった。I a類がベッド状遺構の付いた住居跡で、付いていないものがI b類。I a類は、三号、五号、六号、一二号、二九号の竪穴式住居跡五基が四区から一四区までの範囲の中に収まっていた。竪穴式住居跡の広がりの中では、西半分の範囲であった。I b類は、三二号と六八号の竪穴式住居跡二基が一四・一五区と二八・二九区で見つかった。竪穴式住居跡の広がりの中では、東側に位置していた。

II類は大型の正方形住居跡で、一号、

二号、四二号。一七区に二軒があったものの、それ以外は、竪穴式住居跡の広がりの中の西側にあった。

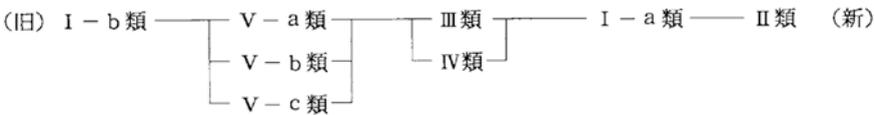
III類（八号、三三号、一七号、四三三号、四五号、五二号、五五号）は、小型の長方形（長軸二・二〜四メートル）で、八区よりも東に分布していた。

IV類（五三三号）は、小型の正方形（二辺二メートル）で、八区よりも東に分布していた。

V類は、中央部（二二〜二八区）に分布していた。大型の円形の住居跡で、ベッド状遺構が設けられていた住居跡をV a類、設けられていなかったものをV b類、また壁の一方が花卉状に突き出した形のをV c類と呼んだ。見つかった範囲では、お互いが重なりあっていて、何度も建て替えが行われたことを教えてくれた。a類は、一八号、一九号、二二号〜二五号、三六

号、四〇号、五〇号の九基が該当した。この中で、二三号と五〇号の住居跡からは、内行花文鏡と呼ばれる青銅製の鏡が出土した。b類は、四九号。c類は五七号で、「花卉型住居」とか、「日向型間仕切り住居」とか呼ばれるもの。「日向型」と呼ばれているように、主に南九州に見られる住居跡である。重弧文土器がまとまって出土した。

表 園村辰実が示した変遷案



六三三号と六五号が東側（二七区、二五区）にあった。この中で、六五号住居跡からは、青銅製のプレスレットであった銅釧が出土した。その他、形が分からないものは、VII類とされた。

次に園村が試みようとした、竪穴式住居跡の時期的な移り代わりを紹介しておきたい（表）。園村は、類型別に仕分けするなかで、家を新しく造る時に古い家を壊した痕跡が多くあったことに着目し、それを竪穴式住居跡同士の切り合い関係と呼んで、新旧関係の割出しに利用したのだった。

園村が最も古いグループとしたのが、I b類の住居跡だ。そしてその次に続くのが、V類だった。その形の特徴から、その移り代わりを跡付けすると、大型の長方形で、ベッド状遺構を付設しないもの（I b類）から、大型の円形で、ベッド状遺構を付設するもの（V a類）、

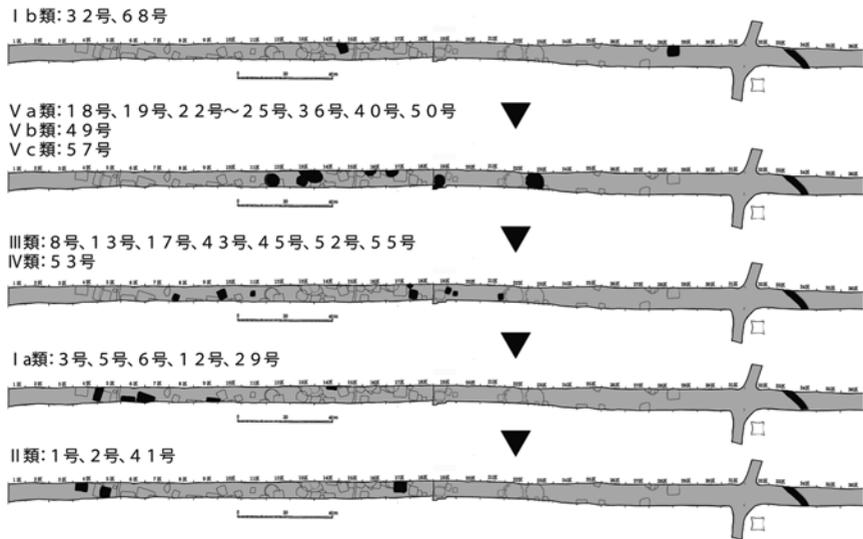


図 図化した園村辰実変遷案

最初のIb類の位置は、
 縦穴式住居跡の分布域の中
 でも東側だった。二基とい
 う少なさではあったが、未発掘
 部分にも隠れていることを勘
 案すれば、分布域の東側に
 偏って家が造られていたもの
 と想像できる。その傾向は
 その次のV類でも受け継が
 れたものだろうか、分布域
 の中央部を中心しつつも東
 側に広がっていたようだ。そ
 して、III類とIV類の頃にな
 ると、分布域の西側以東に
 分布が移り始めた傾向が看
 取できる。そして、次のI
 a類や、その次のII類の段
 階にも看取できる分布傾向
 となった。これを園村は、次

の移り代わりということ、読み解い
 てみよう。そうすると、次のような流
 れが捉えられそうなのだ。
 最初に大型の長方形の家（Ib類）
 に住んでいた人々は、その次の段階には、
 大型の円形で、ベッド状遺構付きの家（V
 a類）、それを付けない家（Vb類）、
 花卉状で複雑な形の家（Vc類）を造
 り始めたのだった。その二つの段階にと
 れだけの時間が流れていたのかは、現時
 点では分からないが、大きさは変わら
 ないものの、上から見た形で、長方形の
 ものから円形のものに変わったわけであ
 る。しかも、ベッド状遺構付きや花卉
 状の形という、今まで見られなかった造
 りの家が作られ始めたのだった。これを
 どのように評価できるのか、これが解釈
 する場合の第一のポイントだ。
 次の段階になると、縦穴式住居は、
 小型の四角の形（III類、IV類）になっ
 てしまった。この背景が気になるところ
 だが、現時点では不明な部分がある。
 さらにその次の段階になると、打って
 変わって、大型の長方形で、ベッド状
 遺構付き（Ia類）が作られるように
 なった。小型の四角の形（III類、IV類）
 が間に挟まってはいるが、ベッド状遺構
 付きという特徴では、関連を読み取れ
 そうなのだが、住居の形では円形と四
 角形と異なる所も顕著である。いずれ
 にしても、解釈をやろうとする上では、
 それぞれの関連は、とても興味深、避
 けて通れない要素である。さらには大
 形正方形（II類）へと造りが移ってい
 たが、ベッド状遺構の有無だけの違い
 であって、そこにもつながりを見出せそ
 うかもしれない。
 そこで最後に、台地上のムラ構え
 の移ろいという観点で、園村が整理
 した移り代わり案を図に起してみよう

しないもの（Vb類）、花卉状に突き
 出た形のもの（Vc類）に代わっていた。
 つまり、長方形のものから円形のもの
 に代わった可能性を指摘したのである。
 この形の変化は、ただ事ではないもの、
 と思えるものだ。
 V類の次には、III類とIV類を置いた。
 III類は小型の長方形、IV類は小型の正
 方形だった。このことから、大型の長
 方形から大型の円形に移り変わった後
 次の段階には、縦穴式住居跡は、小型
 の長方形と正方形になったと考えたの
 だった。そしてその次には、Ia類と
 いう、大型の長方形で、ベッド状遺構
 を付設したものが作られたと考え、さ
 らには大型の正方形住居跡（II類）へ
 と続いたという。目まぐるしく変わっ
 た意味が何だったのか、興味深いもの
 があった。
 こうした流れを、縦穴式住居の造作

の移り代わりということ、読み解い
 てみよう。そうすると、次のような流
 れが捉えられそうなのだ。
 最初に大型の長方形の家（Ib類）
 に住んでいた人々は、その次の段階には、
 大型の円形で、ベッド状遺構付きの家（V
 a類）、それを付けない家（Vb類）、
 花卉状で複雑な形の家（Vc類）を造
 り始めたのだった。その二つの段階にと
 れだけの時間が流れていたのかは、現時
 点では分からないが、大きさは変わら
 ないものの、上から見た形で、長方形の
 ものから円形のものに変わったわけであ
 る。しかも、ベッド状遺構付きや花卉
 状の形という、今まで見られなかった造
 りの家が作られ始めたのだった。これを
 どのように評価できるのか、これが解釈
 する場合の第一のポイントだ。
 次の段階になると、縦穴式住居は、
 小型の四角の形（III類、IV類）になっ
 てしまった。この背景が気になるところ
 だが、現時点では不明な部分がある。
 さらにその次の段階になると、打って
 変わって、大型の長方形で、ベッド状
 遺構付き（Ia類）が作られるように
 なった。小型の四角の形（III類、IV類）
 が間に挟まってはいるが、ベッド状遺構
 付きという特徴では、関連を読み取れ
 そうなのだが、住居の形では円形と四
 角形と異なる所も顕著である。いずれ
 にしても、解釈をやろうとする上では、
 それぞれの関連は、とても興味深、避
 けて通れない要素である。さらには大
 形正方形（II類）へと造りが移ってい
 たが、ベッド状遺構の有無だけの違い
 であって、そこにもつながりを見出せそ
 うかもしれない。
 そこで最後に、台地上のムラ構え
 の移ろいという観点で、園村が整理
 した移り代わり案を図に起してみよう

の移り代わりということ、読み解い
 てみよう。そうすると、次のような流
 れが捉えられそうなのだ。
 最初に大型の長方形の家（Ib類）
 に住んでいた人々は、その次の段階には、
 大型の円形で、ベッド状遺構付きの家（V
 a類）、それを付けない家（Vb類）、
 花卉状で複雑な形の家（Vc類）を造
 り始めたのだった。その二つの段階にと
 れだけの時間が流れていたのかは、現時
 点では分からないが、大きさは変わら
 ないものの、上から見た形で、長方形の
 ものから円形のものに変わったわけであ
 る。しかも、ベッド状遺構付きや花卉
 状の形という、今まで見られなかった造
 りの家が作られ始めたのだった。これを
 どのように評価できるのか、これが解釈
 する場合の第一のポイントだ。
 次の段階になると、縦穴式住居は、
 小型の四角の形（III類、IV類）になっ
 てしまった。この背景が気になるところ
 だが、現時点では不明な部分がある。
 さらにその次の段階になると、打って
 変わって、大型の長方形で、ベッド状
 遺構付き（Ia類）が作られるように
 なった。小型の四角の形（III類、IV類）
 が間に挟まってはいるが、ベッド状遺構
 付きという特徴では、関連を読み取れ
 そうなのだが、住居の形では円形と四
 角形と異なる所も顕著である。いずれ
 にしても、解釈をやろうとする上では、
 それぞれの関連は、とても興味深、避
 けて通れない要素である。さらには大
 形正方形（II類）へと造りが移ってい
 たが、ベッド状遺構の有無だけの違い
 であって、そこにもつながりを見出せそ
 うかもしれない。
 そこで最後に、台地上のムラ構え
 の移ろいという観点で、園村が整理
 した移り代わり案を図に起してみよう

筏師いかだし

上村雄一

木材を筏にして、それを運ぶ人を筏師という。明治41年の肥薩線開通にともない木材輸送は鉄道が担うようになって筏師の数は激減したが、麦島勝氏の写真にみられるように完全に消滅したわけではない。木材の輸送方法としては筏は安価であるだけでなく、伐採地から木材を駅まで運ぶ手間を省く有用な方法であった。木材の需要も多く、鉄道だけで運送できない事情もあった。

流域によって事情が異なるので、どの時期まで、筏師が職業として成り立っていたかを正確に述べることはできないが、八代市坂本町に限定して言えば、昭和29年末の荒瀬ダム建設完成時までかなりの数の筏師がいた。ダム完成後も、荒瀬ダムまで筏は流されていたので、坂本より上流では、筏師は存在していたはずだが、いつまで、荒瀬ダムまで筏を流す方法がとられていたのかの詳細は

確認できない。これについては坂本町の場合に限定してあとで触れる。
以下、坂本町の筏師の仕事内容・生活の一部を、以前におこなった聞き取り調査をもとに簡単に紹介する。

坂本の筏師

筏師の報酬は工場労働者より高額であった。熟練労働者の月給が1000円の頃、筏師は1回の流しで300円を得ていた。2人で流せば1人あたり150円になる。これを「1人前半（イチニンマエ・ハン）」といった。雇用労働者の賃金の1.5倍の収入という意味である。しかし定期的に仕事があったわけではなく、筏を組み流す作業に必要な費用はすべて筏師の負担であった。専業ではなく農作業をしながら筏を流す者が多かった。田畑をもつ筏師もいたが、大半は第三者（地主から）土地を借りて小作人的に農作業に従事していた。

そうした小作人は地主のもとにたびたび「ご機嫌うがい」に出むき、地主に対しては敬語をつかった。世間は専門職ではなく、未熟練工とみていた。つまり、誰でも出

来る仕事とみた。定期的収入がないこと、危険な仕事であること、筏師に対する社会的評価が低かったことなどが原因になって、「高収入」であるにもかかわらず、雇用労働の場がみつければ、筏師をやめて、その仕事に就いた。「雇用労働者は「社員」ではなく「ヒュトリ（給与取り・日雇い）」と呼ばれ、会社も「社員」と「ひゅとり」を区別したが、臨時労働者ではなく終身雇用の正

規労働者のことを指し、「社員」は株主または上級労働者について使った。「ヒュトリ」は元々は文字通り「日雇」であっただろうが、終身雇用制度の確立とともに意味を変えた。

木材輸送の当事者は、山林所有者、伐採者（山師）、伐採

地から河原まで木材を牛で運ぶ馬喰、筏師の四者である。山林所有者が、自己の山林の伐採を山師に、輸送を馬喰と筏師に依頼した。法的に言えば、それぞれの関係は「請負」に該当する。木材売却で得た収入の大半は山林所有者のものとなった。業者では、馬喰の収入がもっとも高く、筏師、山師がそれにつづいた。馬喰は希少性のため収入が多く、危険性のため筏師がこれにつづいた。それぞれの作業は分割されているが、これを統括する「親方」がいた。仕事の手配などは親方がおこなう、親方からの依頼があったとき筏師はその仕事に従事した。

木材の輸送先は八代と坂本であった。坂本は製紙工場用の木材であった。八代までくだったときには汽車で帰り、瀬戸石駅で下車した。汽車賃は筏師の負担である。坂本まで歩き同所で買い物をして坂本駅から汽車で帰ることもあった。長靴でなく草鞋をはいていた。八代と坂本は「焼酎を呑む」ところであった。禪姿で汽車の車中で呑んでいた。それをみて「汚らしくてしかたなかった。あのような仕事はしたくないと思った」と語る人もいる。



「筏組み」昭和32年、葦北郡芦北町海路で。
撮影／麦島勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

それは別にして、多くの話者は、筏師を語るべき焼酎を話題にした。川の仕事である。身体が冷えて仕方なかったのであろうか。筏師＝焼酎のイメージは固定している。筏師たちが利用した八代の呑み屋街はいまでもその外観をとどめている。

筏はツタ（葛）で組んだ。ツタは筏師が用意した。ハゼカズラとカンネカズラが利用された。ハゼカズラが強く好まれた。カズラを用意する作業だけで筏師は1日を費やした。木材をカズラで組み筏にする作業も1日をついやしておこなった。球磨川が増水したときと渇水のとときには筏の組み方はちがった。木材を固く縛りつけ筏にする作業は簡単でなく初心者と熟練者の作業時間は大きくちがった。夏だけでなく冬も筏をくたした。冬場には身体が凍える、辛い仕事であった。1人または2人で川を下った。小俣の瀬（佐瀬野）と犬帰の瀬（合志野）が難所であった。難所で筏を岩にあて崩してしまい、子どもたちから「下手クソ」と囃したれもした。夏には、子どもたちが筏まで泳ぎ、筏のうえで遊ぶこともあった。仕事の邪魔になるとして、それを嫌う筏師もいて、

その筏師は筏を操る棒で子供たちを追いやった。

中津道（荒瀬ダム跡約5キロ上流右岸の集落）の筏師の場合、同所から八代（萩原）まで6時間ほど筏をながした。現在のトラックであれば約30分の距離である。夏場は水に勢いがあるため早く目的地についた。冬は水が少なく時間を要した。「段」（荒瀬ダム下流右岸約7キロ地点の集落）付近で食事のため筏のうえで休憩した。難所で筏が崩れる（解ける）ときもあった。そのときは、筏を組み直さなければならなかった。カズラが緩んでいると感じたときも筏を組み直した。

ダム完成後

荒瀬ダム完成後も、ダム近くまで筏で木材を運んだ。そのあとは陸送であった。報酬は大幅に減った。瀬戸石ダム建設にともない沿岸道路（国道219号線）の整備が進み、筏の時代は終了した。筏師たちは新天地を求めて地元を離れた。多くは炭鉱労働者になった。そのほかの者はおおむね土木作業に従事した。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

茅葺屋根の茅葺作業

上村雄一

50年前、茅葺屋根の家は数軒あった。大半の家は瓦葺であった、茅葺

の作業は地域の若者が中心になっておこなっていたが、作業の細かい内容は覚えていない。茅葺の家は時代遅れの世代とのイメージであった。その家に対して差別意識もあったように思う。いつまで茅葺の家が残っていたか、その記憶もない。いつの間にかなくなった。

錦町の桑原家住宅を訪問したとき、ご家族にうかがった。球磨地方には茅葺の職人さんはいない、鹿児島職人さんに手入れしていただいている、維持するのに手間がかかるとのことであった。

八代地方も同様であろう。瓦葺のときも地区の若い人たちが作業を手伝っていた。お礼をしていたかどうかのようなお礼であったか、の記憶もない。昼食などの用意はその家がおこなった。

いま、家は個人が建てるものになっている。手伝うこともない。手伝うだけの技術も持ち合わせておらず、業者にすべてを任せるのが合理的だという考え方が支配的にみえるが、どうだろうか。

麦島さんが写真を撮った頃、茅葺は普通の光景であったのだろうか。そうだとしたら、約10年で家屋の風景は一変したことになる。

【うえむら・ゆういち／八代市】



「茅葺き屋根のふき替え」昭和27年、八代市坂本町
撮影／麦島勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

鑑内橋かんないばし

八代市鏡町内田



鑑内橋（八代市指定文化財）



橋近くの家の石垣

石工は岩永三五郎。文政13年（1830年）架橋。長さ7・2メートル、幅3・8メートル、径間5・5メートル。鑑町と内田村を結ぶところから、その名がつけられた。橋自体だけでなく、同橋近くの家屋は石を土台にし、鏡川利用のため

行できない。

三五郎は寛政10年（1798年）生まれであるから、この橋は三五郎が32歳のときの作になる。このとき三五郎はすでに岩永の姓を名乗ることを許され、帯刀も認められていた。

（春秋）



鏡川に下る通路

めの通路を設けている。江戸時代には、松橋と八代をむすぶ「下往還」の要所で、鏡川に架けられている。橋のたもとには「御高札場」があった。現在は住宅地になっている。宮原と坂本などの高札所は2枚立であったが、ここは八代町徳淵とともに12枚であった。

明治10年（1877年）の西南戦争のとき、官軍の斥候と西郷軍の斥候がはじめて出会った所で、その情報によって西郷軍は氷川に陣地を構えた。八代市指定文化財。人、自転車、バイク以外は通



御高札場跡

「老いらん」道中③

「元気に暮らす読者の〴〵秘術」

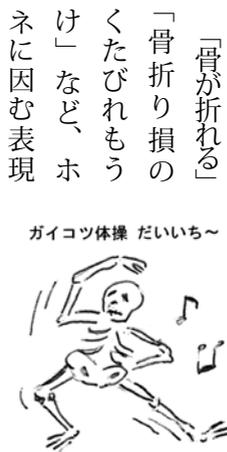


600ミリグラム」と覚えておく
とよこ。

【たかもり・なおふみ／広島市】

食生活のコツは骨にあり

高森直史 (79歳)



～だいいち体操コイガイ

「骨が折れる」
「骨折り損のくたびれもうけ」など、ホネに因む表現が多いように、体と頭を働かせるにはカルシウムの力が大きい。

そのための食生活のコツは骨（カルシウム）の摂取。蓮如上人の「白骨章」では「朝には紅顔ありて、

夕には白骨となれる身なり…」となっているが、普段から骨を損ねておくと、六親眷属あつまりて夜半の煙となし果てぬれども「白骨だにのこらず、あわれというもさらにおろかなり」となってしまう。

骨を摂るコツは簡単。球磨川の鮎の塩焼きを毎日一尾、丸ごと食べるのが理想だが、それは無理としても、小魚（たたみイワシ、しらす干し、サヨリの味醂干しなど）で十分。煮干し五尾でカルシウム200ミリグラム（70歳以上の摂取基準量は

少女時代の賜物かも

中村美喜子 (80歳)

あらたまの年の始めに願ふなり
からだの無事と輝き少し

年頭の一首、これが今の心境である。母は終戦直後、私が小二の夏に発病、小五の夏に他界。残された家族は公務員の父と子どもたち四人で、私は唯一の女性となった。苦難の当時、学校の傍ら幼い主婦としての存在は、学校や小さい村には充分知れ渡っていた。戦後の時代

を明るく健気に生きたこの七年間の自分史は、本が何冊あつたら収まるであらう。

継母を迎えたのは、すでにお手伝いさんを雇った後の高校受験寸前のこと。無邪気な初婚の母は、周りの人々から誤解されることも…。私はその素直な母を必死に底い続けた。そこでも自分史は更に、ページを増すことになる。

年々、体の内外ともに衰えを感じているが、潜んでいる好奇心だけは未だに健在。現在三世同居で、多忙な中にも毎日が楽しく、とても幸せな日々を送っている。これも少女時代の稀な体験から培った賜物かも知れない。

【なかむら・みきこ／人吉市】

きょうじょう／きょうじょう

三倉重成・三倉美千子

よく聞く教養や教育の話ではありません。「今日用事がある」と「今日行く処がある」のことです。表記しなければ分かりにくいですね。歳を取つてくると段々用事も少なくなり、行く処も減つて億劫になつて来ます。

これからは在宅老後・介護になり、頼りはご近所さんですばい。老人クラブも支え合い助け合いのネットワークですと。

老人クラブは聞こえが悪かと言ふ人もおられますが、グラウンドゴルフに代表される軽スポーツ、おしゃべりサロンや近場の旅行、史跡巡り、ボ

ランテアの神社や公民館清掃など様々な活動がありますと。

振り込め詐欺や交通法規など新しい情報も聞けるし、健康づくりや認知症予防と考えて自分の体力・能力に応じて活動をすればよかそうです。私共二人とも会員です、未加入の方は是非とも、入会をばお待ちします。

【みくら・しげなり みくら・みちこ／人吉市】

この欄への投稿の目安は一件につき400字、何件でも可。住所・氏名・年齢を明記のこと。締切は毎月5日。宛先 〒868-0015 人吉市下城本町1436-4の3号 人吉中央出版社内「くまがわ春秋」編集部宛て

少子化社会と所得格差

(編集部)

宅配業者・引越業者の人手不足にみられるように都市部でも少子化社会の深刻さが確実に理解される

ようになつてきた。後継者不足で廃業せざるをえない自営業者も増えている。

過疎地では、集落の存続が不可能になるほどまでに人口減少はすすんでいる。

2020年	2025年	2030年
120,083	113,441	106,689
31,592	29,555	27,531
15,111	14,265	13,435
10,075	9,557	9,041
3,737	3,381	3,053
8,983	8,232	7,507
2,015	1,830	1,654
3,395	2,997	2,647
3,333	3,150	2,987
4,021	3,860	3,530
918	799	684
16,428	15,044	13,704
4,360	4,022	3,697
23,151	21,312	19,518

これまでの出生率からみて人手不足は今後とも各方面で顕在化している。

16年度所得

八代市	259万4212円	1136位
人吉市	261万9944円	1094位
あさぎり町	229万2690円	1653位
錦町	231万9564円	1616位
湯前町	215万4919円	1724位
多良木町	242万8388円	1648位
水上村	226万8585円	1679位
球磨村	198万0605円	1741位
山江村	212万8017円	1733位
相良村	218万7299円	1717位
五木村	225万3671円	1694位
芦北町	224万1894円	1697位
津奈木町	213万6146円	1732位
水俣市	250万7525円	1335位

地域別の所得格差も大きい。所得格差は生活・生存可能性の問題に尽きるわけではない。むしろそれ

ていく。そのことを数値で確認しておこう。将来の推定人口予測数については、年齢構成が重要になるが複雑になるので説明を省略した。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2017年
八代市	143,712	140,655	136,886	132,266	127,472	125,966
人吉市	39,373	38,814	37,583	35,611	33,880	33,015
あさぎり町	18,533	17,751	17,300	16,638	15,573	15,165
錦町	12,095	11,975	11,647	11,073	10,766	10,505
湯前町	5,350	5,018	4,726	4,375	3,985	3,846
多良木町	12,701	12,072	11,398	10,544	9,791	9,385
水上村	2,919	2,706	25,097	2,405	2,232	2,167
球磨村	5,885	5,201	4,786	4,249	3,698	3,548
山江村	4,118	4,104	3,901	3,681	3,422	3,326
相良村	5,756	5,526	5,398	4,934	4,468	4,310
五木村	1,687	1,530	1,358	1,205	1,055	944
芦北町	23,744	22,373	20,840	19,316	17,661	16,985
津奈木町	5,793	5,741	5,424	5,062	4,673	4,498
水俣市	32,842	31,147	29,120	26,978	25,411	24,641

表【自治体別人口数の推移】(国勢調査統計)(2017年は推計人口)(2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計人口)

以外の側面で問題になる。たとえば、大学の進学率の問題がある。低所得は大学などへの進学の問題になるのであって、貧困が「負のスパイラル」をもたらしかねない。そこで平均所得10位までの自治体名と球磨川流域自治体の所得順位を紹介する。上位中の第4位の猿払村はホタテの特産地、第9位の

忍野村は高額給与で有名な工作機械メーカーの所在地である。独占的特産物をつくりだせるかに地域活性化のポイントのひとつがあることが、これによって確認できる。自治体数は1741である。したがって球磨村は最下位ということになる。

16年度所得ベストテン

1位	港区	1111万7429円
2位	千代田区	915万8591円
3位	渋谷区	772万7922円
4位	猿払村(北海道)	692万8215円
5位	芦屋市(兵庫県)	632万4630円
6位	中央区	617万9072円
7位	文京区	587万1979円
8位	目黒区	584万8758円
9位	忍野村(山梨県)	547万2383円
10位	世田谷区	544万9736円

人吉藩の明治維新

①

益田啓三

『第二便』

己巳七月十七日つちのな（明治二年・1869）

歸藩便船願左之通

知藩事上下拾五人

右者今般歸藩御暇被

仰出候ニ付来ル二十日東京出立

横濱碇泊之米国ニウヨルク船江

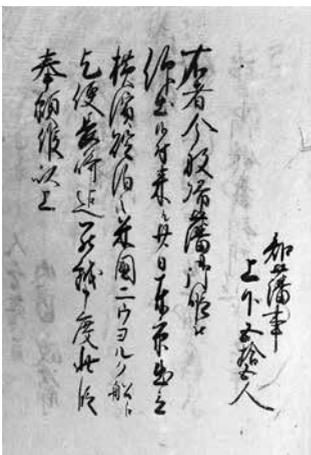
迄便長崎迄罷越申度此段奉

願候以上

七月十七日

人吉藩公用人

内田政次郎



⑤ 人吉への歸藩願

肌で感じた
ことでしょう
（写真⑤）。

明治二年七月になつて藩主相良頼基をはじめ家臣たち五十五人はようやく人吉へ帰ることになりました。ただ故郷に帰るにも明治政府の許しが必要でした。この時はアメリカ船の「ニウヨルク」号、これは「ニューヨーク」号だと思えますが、この船に乗つて横浜から長崎へ向かっています。これまでのように歩くよりははるかに楽ちんだつたに違いありません。藩士たちも文明の違いを

己巳八月四日

人吉藩

依御用之旨兵部省江公用方出頭之処官軍江抗敵候者

六人御預被仰付左之通

元高田藩 高橋金次郎 牧野隣太郎 朽堀磐次郎

伊東兵助

元福山藩 柿谷慎三

南部伊豫家来 谷地洋及

別紙之者共 官軍ニ抗敵候処今般降伏候間其藩江御

預申付候事 但禁錮之者ニ

ハ候得共見込ヲ以使役等可為勝手候事 八月 兵

部省

兵部省より呼び出しを受けた人吉藩は六人の罪人を預かることになりました。兵部省は国防の部署でこの六人は戊辰戦争後も明治政府に抵抗を続けていた人物のよ

うで高田藩は越後福島県、福山藩は広島県、南部伊豫は盛岡です。

この六人のことは人吉藩で勝手次第に使役などに使つてよいと兵部省よりの達しで、また預かる期間も決まっています。十一月の末に大赦となっています。この時の人吉藩公用人は渋谷鍊助で後の肥薩線開通に尽力した渋谷礼のことです。

己巳十二月十八日

依 御用召那須拙速 新宮竹間、出頭之処於大広間

三之間林小辨殿ヲ以御書付御渡左之通

那須拙速 任 人吉藩大参事 右宣下候事

十二月太政官

山田酒造蔵 文言 右二同シ

新宮竹間 任 人吉藩権大参事 右宣下候事

十二月太政官

犬童平兵衛 文言 右二同シ

相良頼基の藩知事就任に続き幹部が決まりました。

以前の家老職相当が今度は「大参事」と変わり、旧家老の那須拙速と山田酒造蔵が就任することになりました。その下の「権大参事」に新宮竹間と犬童平兵衛の名があります。皆旧藩政時代からの重臣です。新宮竹間しんぐうたけはこの後の西南戦争ではひとり官軍に属し、子供、親戚、旧友たちと敵味方に分かれ戦うことになりましたが、この時にはまだ夢にも思わなかったことでしょう。

己巳十二月二十八日

此節異宗門御取記ニ付其藩支配所不残様細密ニ遂穿鑿長崎懸江有無可届出事

御書付 土方中辨殿御渡

今般異宗門之徒御取締相成候ニ付而ハ支配中異宗徒有無厳密取調長崎懸江可申

出事 十二月 太政官

『第二便』

庚午十二月二十二日 従 政府御達書彈正台出張所ヨリ廻達有之左之通

熊本藩 延岡藩 人吉藩

近來浮浪之徒豊後路辺各所ニ潜伏致シ時々出沒暴行ニ及ヒ候段日向懸中津藩

届出候ニ付テハ近傍地方官管内捕押方厳重手配ハ勿論臨機兵威ヲ以テ処置可致

候 尤右為取締河野彈正少忠日田懸江被差遣候時宜ニヨリ差図ニ及候儀モ可

有之候条此旨相達候事

明治三年十二月、政府より熊本藩と延岡藩、人吉藩へお達しがありました。当時豊後（大分県）あたりでは浮浪之徒（反政府の浪人たちと思われる）が潜伏し、

御内達之趣奉畏候御機密之儀ニ付決而漏泄不仕候様御請迄如件

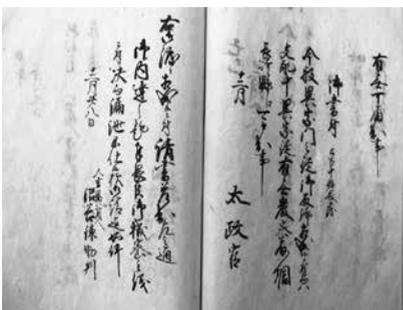
十二月二十八日

人吉藩公用人

渋谷鍊助

判

明治二年もおしつまった十二月二十八日、太政官よりのお達は「異宗門」の取締というもので、各藩の中に「異宗徒」がいるのかを調べて長崎県へ報告するように命じるものでした。この異宗徒とはキリスト教徒の事と思われ、この時期まだキリスト教は禁教でした。市中に掲げ



⑥「異宗徒」調査の命令書

られていたキリシタン禁制の高札が取り除かれたのはもう少し後の明治六年のことです。ただ最後に「この調査は機密であり決して漏らしてはいけない」と書かれており秘密であったことが窺えます(写真⑥)。

時には暴行におよんでいることを日向藩や中津藩より届けがあったので厳重に取り締まるようにとの命令です。このころより禄をはなれた武士たちの中には明治政府への不満を持つものが次第に多くなり、やがて明治十年の西南戦争へとつながっていきます。

辛未二月二十二日 新宮権大参事帰藩御暇願差出左之通

人吉藩権大参事 新宮竹間

右先達而藩制御届申上候処御落手難相成事件有之於此表改定致兼一先帰藩知事

江局談仕度奉存候 依之滞藩十日往復五十日都合六十ヶ日御暇奉願之候 然而

明二十三日ヨリ此地発足二十四日横浜出艦便迄仕度候間何卒早急之御沙汰奉願 上候以上

明治四年二月、人吉藩の権大参事新宮竹間是人吉に帰るため休暇願を出しました。予定では人吉滞在が十日、往復に五十日、合わせて六十日間の休暇を願ひ、明日には東京を出発し横浜からの船便に乗りたい旨を早急に願っています。理由として「事件有之」としていますが、これは明治二年十一月に起った「新宮竹間暗殺未遂事件」のことだと思われ、竹間自身が暗殺されそうになった前代未聞の事件でした。またその首謀者が同じ人吉藩士であることが分かり、その遠因は幕末に相良家を揺るがした「丑年騒動」によるものでした。

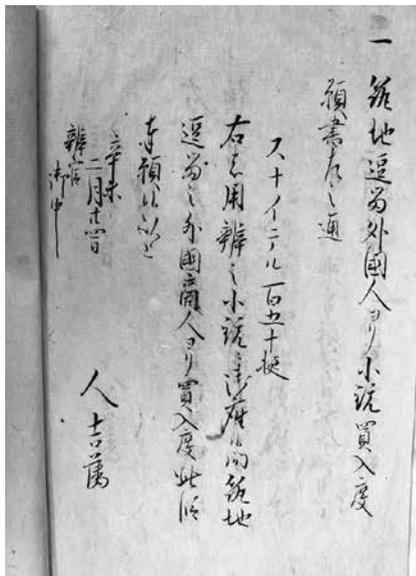
この急ぎの帰国願は許可されませんでした。弾正台による裁判により関係者たちは閉門などの判決となり両者和解となったようです。

辛未二月二十四日 筑地逗留外国人ヨリ小銃買入度願書左之通

スナイテル百五十挺

右者用辨之小銃二御座候間筑地逗留之外国人ヨリ買入度此段奉願候以上

明治四年二月、人吉藩は「スナイテル銃」百五十挺を買いたいと政府へ願ひ出ています。購入先は「筑地逗留の外国人」とあるのみで誰であるかは分かりませんが、当時の金額ではたしていくらだったのでしょうか。人吉藩も軍備を整えていたのが窺えます。後の銃名「スナイドル銃」は後込めの単発銃でした（写真⑦）。



⑦ スナイテル銃の購入願ひ

辛未七月十四日

依 召参 朝之処被免本官且 詔書之趣被仰渡左之通

人吉藩知事 相良頼基

免本官 辛未七月 太政官

詔 書写

朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以億兆ヲ保安シ外以テ万国ト対峙セント欲セハ宜ク名實相副ヒ政令ニニ帰セシムヘシ朕曩ニ諸版籍奉還ノ儀ヲ聴納シ新ニ知事事ヲ命シ各其職ヲ奉セシム然ルニ数百年因襲ノ久シキ或ハ其名アリテ其實拳ヲサル者アリ何ヲ以億兆ヲ保安シ万国ト対峙スルヲ得ンヤ朕深ク去リ簡ニ就キ有名無実ノ弊ヲ除キ政令多岐ノ憂無ラシメントス 汝郡臣其朕力意ヲ體セヨ

明治四年辛未七月十四日

この日、廃藩置県の詔書が発せられ、第三十五代相良頼基も藩知事の職を免ぜられました。殿様も一人となりこれまでの相良領も県と呼ばれるようになり、「相良七百年」の終焉を迎えました（写真⑧）。

《登場人物》

相良頼基 第三十五代当主 幼名元三郎のち為知 従

五位下越前守 幕末より明治維新の時代に

生きる 明治十八年逝去 享年四十五 願

成寺葬

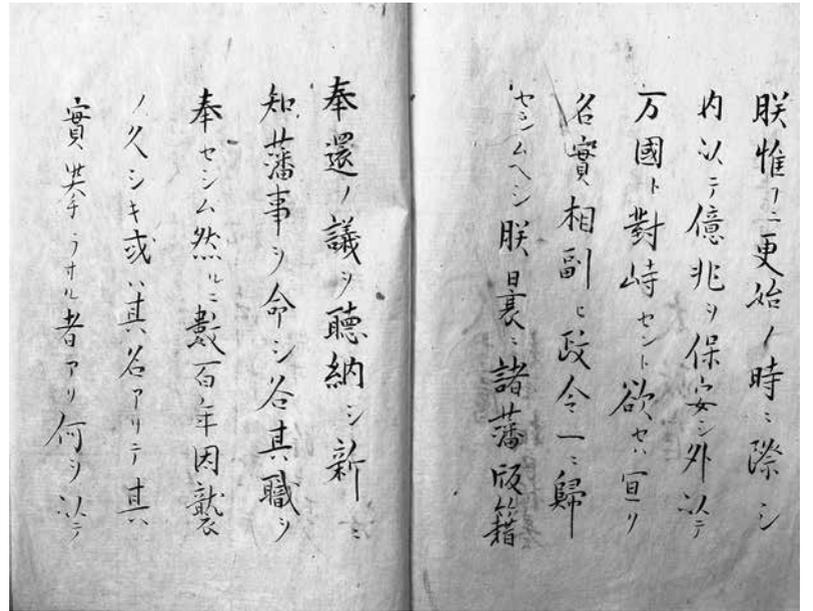
内田政太郎 相良頼寿の子 休命と称す 中尾墓地

那須拙速 原城三百石 家老職のち藩大参事 剣術指

南 西南戦争では人吉隊を編成し西郷軍に

加わる 戦後懲役三年に処され熊本監獄に

て逝去 享年七十三 中尾墓地



⑧ 人吉藩の終わりを告げる廃藩置県の詔書

山田酒造蔵 〓 麓百石 幹蔵 江戸留守居役 物頭役
勘定奉行 明治二年藩大参事 同四年免
職 五日町

渋谷錬助 〓 麓三百石 藩校「習教館」に学び、武道を「郷
義館」に修める。雅号に雲根・来復堂・世
幹などがある。維新後会津戦争時は小隊長
のち近習頭、公用人などを勤める。廃藩後
県会議員となり肥薩線開通に尽力する。明
治三年「礼」と改める。

新宮竹間 〓 土手馬場百石 行蔵と言ひ士敬と号する
相良義休の四男で新宮家の養子となる。維
新後藩権大参事 明治十一年逝去 享年
五十二 永国寺墓地

【ますだ・けいぞう】元人吉市文化財保護委員、人吉市

鶴鴿短歌会

五月詠草

賑やかな光の舞をかもしだす五月の闇を彩るほたる
修行する心も若き雲水は救いの仏法求めつづけて

守永 和久

天草の松島巡りのクルーズは夕映えの海滑べる如くに
大矢野の千巖山より見下せば箱庭のごとく港と街が

河内 徹夫

「茄子花に無駄なきこと」を教へたる六月八日母の祥月
南風のなかバス借り切りて家族旅行今年も孫に支へられつ

中村美喜子

通学時文庫片手に思索せし今はスマホでゲームの世界
孫の手はスマホ片手に指踊り瞬く間に企画書作る

西 武喜

ゴルフ後に仲間でご飯ははんなりニュー選びに個性が見える
同期生一人ひとり去っていく八十路越へとは淋しいものよ

釜田 操

暑さ避け木陰もとめて休まんと切り株見つけ思い出せる
ニツケの樹大木となり危険だと伐採迎え吾が歳重ぬ

中原 康子

うす暗い雨中飛びたる飛行機の下を覗けば真白の雲が
汚れなき真綿の様な雲を見て外に飛び出し横になりましたし

三原 光代

山歩きヤマシヤクヤクの咲き乱れ至福の時間に逝く先想ふ
うたせ船風をはらみて滑り行く夕陽を受けて御立岬を

橋詰 了一

誤嚥して咳き込む妻の苦しみの時計の刻みの永きことかな
澄みわたる空を仰ぎて露天ぶらザンブリ浸れば五体が笑ふ

堀田 英雄

稲留二郎の世界②

球磨弁まつ出しで綴る



前田一洋

今回は「七日町」までやって来たところでした。昔はカシケ町じやったるいども、今はどっこも良うなつていて結構なこと。それでも米が高か

で町へんしもキツかつどたい。家は太う造つてみたものの、店から内や借錢ばつかりでゆうしていきやるぬう。などと現代にもどこか通じるような感想を述べています。それではどんな店が並んでいたのか。

七日町から五日町へん

「見やれ見やれ、煮売り店、古物

すね。現在では、この地に清酒の醸造元など一軒もないからです。しかし、『熊つれづれ咄』が書かれた明治の頃までは焼酎よりも清酒の醸造量の方が多かったのです。因みに、明治八（1875）年には清酒七〇九石、焼酎が五五四石。

もう一つへんなのは、「何でもかでも南無阿弥陀」というくんだり。まあエビス様は神様か仏様か分からないので仕方ありませんが、若宮様は明らかに「神様」ですね。それなのに南無阿弥陀とはナニごとか。そう怒られそうです。でも何の異義申し立てもなさそう。

実は明治になるまで「神仏習合」と申しまして、わが国では神様と仏様はあんまり区別することなく、対等にお祀りしてきたのです。ですから江戸時代の人たちは、青井さん

店、煙草店、荒物店、金物店。豆腐屋、桶屋、小間物酒屋、焼酎屋と軒を並べて美しかばうぬう。横町も同じ事。左に引き折りてちつと行けば五日町、見る見る長んか長んか、先やしれん（見えない）目がとどかんばい。こちら見やれ、町頭まちづかの薬師様南無阿弥陀南無阿弥陀。川端を見やれ料理屋がいくらもある、よか銭を取りめすどう。来やれ来やれ、そら牛屋店、荒物店、板屋、間屋。若宮様、はい南無阿弥陀南無阿弥陀、こらあ蝦子（エビス）様あら有り難や

にお参りする時も「南無阿弥陀、今年どまよかヨメゴばくわせてくたはんもし」とお参りすれば、ちゃんと叶えてくださつたのです。

しかし明治時代になったとたん、「神仏分離」だとか「廃仏毀釈」などと言って、時の政府が庶民の信仰を無視して、神様と仏様を分けてしまったのです。おかげで神様を拜む時には、ただ黙つて柏手と礼をするだけに。

ひどい所、例えばお隣の薩摩などでは、お寺を引き倒し仏像や仏具教典を焼き捨てるなどして、仏教関係のものをすっかり排除してしまつた事例も少なくありませんでした。そのため、そうした地域ではどれほど多くの信仰文化財が失われたことか知れません。

ところが有り難いことに、わが球

南無阿弥陀南無阿弥陀、何でもかでも南無阿弥陀南無阿弥陀」

【解説】

いろんな商店が並んでいますね。煮売りは今でいう惣菜でしょうか、リサイクルも盛んでした。タバコが専売制度になって自由に売買できなくなるのは昭和二十四年からです、当時は自由に売り買いができたのです。

ところで金物店までは店で、豆腐屋から先は屋になっていますね。その違いは何？ そうです、商品を仕入れて売るところが店で、語源は商品をタナに並べてミセルからでしょう。屋の方は、そこで一手に造つて売るところ。

さてここで「酒屋」と「焼酎屋」が別々に出てきて不思議な気がしますが、磨人吉地方では、そうした「人災」に遭遇することはほとんど無く、平安時代からの仏教遺跡や遺品などが、驚くほどよく残っているのです。

まあ、そうしたことから明治の三十年代になつても、昔とおりに「何でもかでも南無阿弥陀チーン」でもかつたのでしょうか。もしかしたら老神さんも多良木の天神さんも、そのことを覚えていらつしやるかもしれません。

それで今度神社にお参りする時には、そつとナンマイダと唱えてみられませんか。すると「ほほう今時じんべんな人間もおるもん」と感心なされ、かなりの難問でもお聴き届けて下さるかもしれませんよ。おやおや、解説がいささか長たらしくなっていました。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

（続く）

天草の「五足の靴」

—「パアテルさん」と「茂助」は何処に居る②

富永和信

前回は私と『五足の靴』との出会いを紹介した。今回は、その『五足の靴』から、五人の若き詩歌人たちの辿った行程の概要に触れてみたい。時は明治四十年七月二十七日、東京を出発して広島・宮島の厳島神社



五人づれ 著『五足の靴』
(2007年、岩波文庫)

に詣で、次に山口県赤間関(下関)を経由、福岡県柳川の北原白秋の生家(有数の酒造家)に数日間逗留。その間、地域の文芸関係の人たちと交流。次に長崎・佐世保・平戸に遊び、次に熊本県天草富岡から大江村天主堂神父「パアテル」さんを探し求め、目的を達成する。再び長崎県島原を経て、熊本市・阿蘇登山・垂玉温泉「山口旅館」に泊す。それから福岡三池炭鉱見学、再度柳川の白秋宅にて旅の汗を流す。その後、与謝野・吉井・太田の三人は

周防徳山の徳応寺(与謝野の実兄が住職)に泊し、最後には与謝野の生地である京都に逗留して、明治四十年八月二十八日に東京に帰り、旅装を解く(同書より)。

五人のこの長期旅行は、事前に各所・要所で地域の文芸・文人との交流懇談などの手配をしている。旅行そのものは一見、無計画に見えるが、物見遊山の旅行ではなかったことがよく分かる。その証拠に、彼らは与謝野寛・晶子主宰の『新詩社・明星』に掲げる「古典主義から自由主義浪漫派文学への脱却」を基軸に置きながら、与謝野を除く北原・太田・木下などはすでに今回の異国情緒豊かな旅体験から南蛮文学の世界に傾斜し、醸成されていた。

それはその後の彼らの作品のなかで特に顕著に出ているのが木下太

郎の「黒船」と、北原白秋の「邪宗門」と言われている。昭和に至ってこの流れを評論家・野田宇太郎は「日本耽美派文学の誕生」と評している。ちなみに野田は「東京二六新聞」に掲

載された後、長い間埋もれていた「五足の靴」を戦後改めて世に紹介した。

このようなことを文庫本『五足の靴』で知った私は、天草での五人の足跡を辿ることにしたのである。

当地の歴史や文化や現況については資料によるも、大部分は天草市役所担当課に紹介された同市立「天草ロザリオ館」の山下嘉明審議員に頼った。山下さんは地元元の歴史や文芸の専門員で、「五足の靴」はもちろん、「パアテル神父」その他、諸々のことを

親切に教えていただいた。

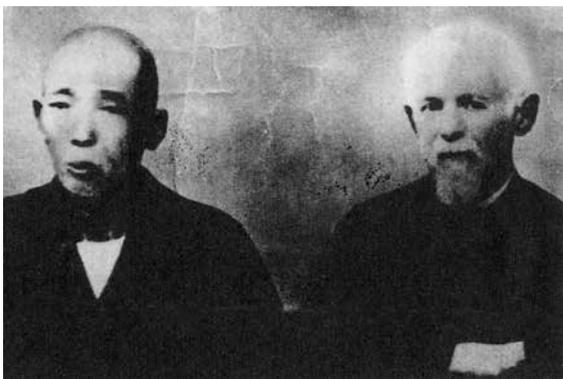
さらに各所まで同行いただいたが、私が紀行文中の「パアテルさん」の言った「茂スケー善か水汲んで来なしゃれ」の茂スケのことを知りたいと言うと、「パアテルさんに直接仕えた人(信者)が一人いるから紹介しよう」



「五足の靴」の五人の若者(天草市版「藍の楽園と浪漫の旅」より)



パアテル神父(ジバング誌より)



茂吉(左)とパアテル神父
(濱名志松編著「五足の靴と天草」より)

漢和字典は面白い

10 鶴上寛治

楼

高い建物の事。望楼という広く遠くを見渡して、情勢を見極める監視所のこと。そこから、一般的に高殿のことを楼といった。

そういったものを持つ料亭・旅館なども「○○楼」という名を付けた。ところが遊廓まで

とばが「遊廓通い」を意味するようになってしまった。「春高樓の花の宴…」の名詩も変な感じになってしまっ

乳

字形は「爪」+「子」+「乙」で「爪」は「手」を下に向けて「かむ形」、「乙」は「乳房の象形」なので、「赤子を乳に向けた形」つまり「乳を飲ませる・子を産むこと・養う・いづくしむ」となる。

待乳山という四股名の相撲取りがいた。紀州に待乳山という山があるらしいが、ちよつと変わった名前——何か地名伝説でもありそう? あなたが作ってみませんか?

牝

メスである。牝馬はヒンバ。「たにへかぎあな」という意味にも使われるそうだが、ちよつとエツチな感じがする。「玄牝」

「玄」は「人間の感覚では知りえぬ、その作用の微妙な事」、「牝」はメスで、子を産むように万物を生み出す、ことかららしい。

某高校の体育祭で、女子騎馬戦の種目を「牝馬レース」という名で印刷しようとしていたらひんしゆくを買い、何か面白くない(?)名前に変えたことがある。その名前、まったく記憶に残っていない。よほど平凡極まる名前だったの

【つるかみ・かんじ／人吉市】

となった。

今回の探訪で、この堀口静雄さん(平成二十五年当時八十三歳)に、パアテルさんのことを直接聞くことが出来たことは幸いにして貴重であった。対談詳細については後述する。

さて、「パアテル神父」については各種資料から概略をまとめると次のようである。

- ・本名Ⅱフレデリック・ルイ・ガルニエ
- ・一八六〇年 フランス・リヨビュイ市サンローラ教区に生まれる
- ・一八八四年 パリ大学神学校卒業
- ・一八八五年(明治十八年) 東洋日本・長崎地区教会赴任
- ・一八九二年(明治二十五年) 熊本天草大江教会・崎津教会へ
- ・一九四二年(昭和十七年) 同教会

在任中に帰天。(享年八十二歳)

日本赴任以来五十七年、天草には五十年間、八十二歳の生涯を終えるまで一度も故郷フランスに帰ることなく、本人の強い意志で天草の人となり土となつて、大江教会天主堂の一隅に眠っている。

赴任当時の天草は極めて不便で貧しい寒村で、教会も小屋同然の建物であったらしい。パアテル神父はそのような状況のなかで破れ法衣をまとつて、自ら清貧克己の生活に徹し、教道のみ



パアテル神父が建てた大江天主堂にて

ならず社会福祉の活動もあつて、村人から「パアテルさん、パアテルさん」と親しまれ、敬慕された。

(つづく)

【とみなが・かずのぶ／山口市】

倉敷便り

18

絵と文／原田正史

広兼邸と銅山

平成三十年五月五日、岡山県の北部に位置する高梁市成羽町の吹屋を訪れました。吹屋探訪の第一の目的は横溝正史の小説『八つ墓村』の映画化の際、田治見家の屋敷として撮影された吹屋の広兼邸を見ることでした。映画で見た広兼邸は豪壮な佇まいながらも一種独特の怪しげな雰囲気を漂わせていたのが印象的でした。

部は終りととなり、中国山地に入ります。ポツカリと口を開けたような大きな谷間の両側から山が迫り、道路左手には高梁川が穏やかな流れを見せて南へ流れ下っています。道路右手の少し上方には倉敷駅と鳥取県米子駅を結ぶ伯備線が走っています。進んで行くと、この景色はどこかで見たことがあるような思いが生じます。よく考えてみると八代平野と人吉盆地の間で見られる球磨川沿いの景色とそっくりなのです。違うところは球磨川が急流であつて谷が深く、両岸に見事な岩石の露出が続くことくらいです。

やがて車は、北側に高梁市の中心街が見える地点に到達します。中心街の近くには、天空の城として名高い高松城が存在しますが、今回は時間にゆとりがなく、見学することが出来ませんでした。車はここから進路を西方に転じ、高梁市成羽町に達したところで、西進する本道を捨て、北側の谷を渡って、細い上り下りの激しい山道に入ります。右側は深い谷で、断崖絶壁となつており、運転を誤ると確実にあの世行きです。

高い山を背にした広兼邸が、城壁のように高く長く積み上げられた

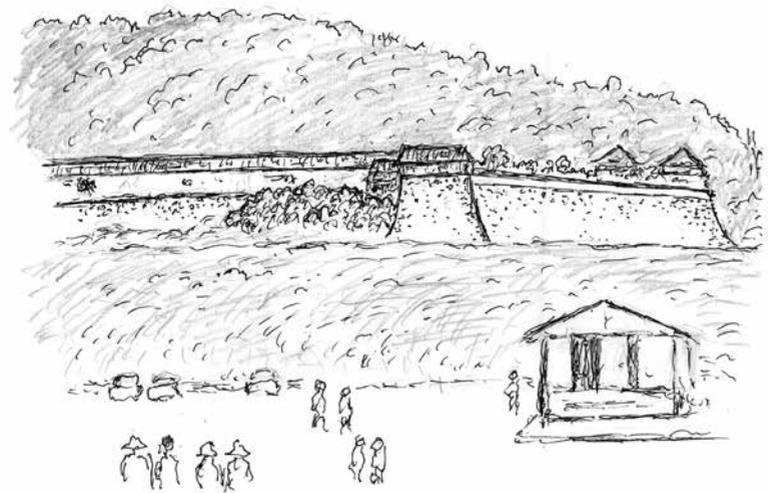
花崗岩の石垣の上に厳然たる姿で横たわっていました。標高五百メートルに達する備中の国の山奥である吹屋の里に、このような豪邸を造り上げた人物はどんな人だったのか、或いはどんな時代の人だったのかの知りた

いと誰しもが思うことでしよう。

トルの敷地に、母屋・長屋・土蔵・楼門からなる五八七平方メートルの建物を建造しました。その後、大正三年（1914）に離れ座敷（二七平方メートル）を増築しています。

広兼邸は、旧中野村大野呂の庄屋だった同家二代目元治が小泉銅山（成羽町）を経営し、

駐車場から広兼邸へ行くには、急な坂道を大きく左側に回り込みながら登って行かなければなりません。幸いなことに売店に貸し出し用の竹杖が用意されていたので、これを借りてどうにか高さ十五メートルの垂直に近い傾斜地を持つ石垣の基部に到着できました。ここから楼門までは石垣面に沿って斜めに取り付けられた急な石段を登ることになります。左手で、見学者のために新しく設置されたと思われる金属製の



岡山県高梁市の山奥にある広兼邸（2018, 原田）

柄）の製造により巨万の富を築き、文化七年（1810）に山を切り開き、二五八一平方メー

手摺を掴み、右手で竹杖をつきなが

ら一歩一歩進み、どうにか楼門に到達できました。

邸内を一巡して背後に回ると裏山の山裾が目前にあり、露出した緑色の岩石の割れ目から流れ出した水が、溶結凝灰岩製の大きな石桶に溜められていました。広兼邸がこの場所に建てられた最大の理由は、ここなら十分な用水の確保ができるからだだったと言えるでしょう。

緑色を呈する岩石は輝緑凝灰岩と呼ばれる南太平洋産の石です。このような外来種は、異地性岩体と称されます。南太平洋に噴出した火山灰が海底に堆積し、海洋プレートによって西方へ運ばれ、日本列島に合体した異地性岩体なのです。輝緑凝灰岩には、部分的に含銅硫化鉄鉱床が存在します。含銅硫化鉄

鉱床に銅が多く含まれていると銅山になり、鉄が多い部分では鉄が変質してベンガラ（材料である白い結晶のローハ）が出来ることもあるのです。

鉄が酸化して出来る酸化鉄には酸化第一鉄と酸化第二鉄があります。前者が通常見られる茶色の錆で、後者が通常見られない赤錆、すなわちベンガラなのです。ベンガラは昔、焼き物や布を赤く染める染料として使われ大変高価なものでしたが、現在では肥料の副産物として大量に生産され、安価なも

のとなりました。それにより今では、ベンガラの恩恵を受けた広兼邸のような豪邸は造られなくなってしまったのです。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

考古学はドラマだ。

肥後と球磨
その原史世界に
魅せられし人々

— 肥後と球磨の考古学史 —

木崎康弘

※九州内の紀伊國書店を中心に熊本市内の主要書店
人吉球磨の書店 Amazonで取扱中。

■発行元 人吉中央出版社
■A5判/約600頁/上製本
■定価 3,000円(+税) 送料 200円

年 45
念 生誕
下 記
し 書

小説・相良清兵衛

5

山口啓二

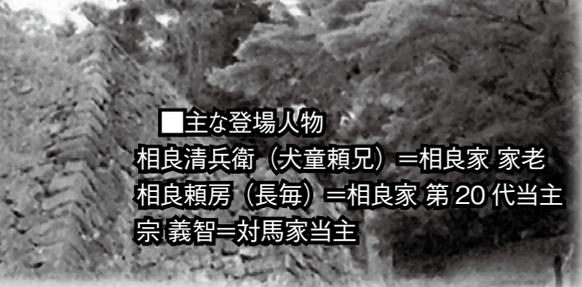
新しい人吉城はすでに御下門から上の本丸、二の丸・三の丸の石組みがほぼ完成していた。天守からは東の開けた土地の先に江代山が、そして右前方には白髪岳が見える。その中央には球磨川が流れ、その先にこの地方いちばんの高さを誇る美しい姿の霊峰市房連山が一望できる。城のすぐ北側に流れを変える球磨川のほとりには、米や農作物などの積み降ろしが出来る大きな船着き場を兼ねた水の手門が、さらにその下手には城壁を鍵型にした長每公専用の船着き場が造られ、そのさらに下流に清兵衛専用の船着き場と、そのまた下手の胸川合流近くに軍事品専用船着き場が造られた。

相良家臣小田又兵衛と豊後の石工棟梁の指示により工事は着々と進んでいった。天守の真西には曹洞宗・蓬萊山永国寺に向かつてまっすぐ延びる参道があり、西側に流れを変えた胸川沿いには大手門が出来、新橋が架けられて行く。また三の丸のすぐ西の下には御館が建設され、その周りを高

【前回までのあらすじ】父休矣の後を継いだ清兵衛は、藩内の本格的な基盤整備を進めていった。そして時々思い返すのはかつての朝鮮出兵ことであった。

い城壁が覆った。さらに南と東には各奉行の屋敷が造られ、球磨川と胸川の河原を埋め立てて造った城郭の西の半分は清兵衛一族の屋敷に当てられた。そのまた半分には先ごろ島津家佐土原城主の娘とき姫との婚約を済ませた嫡男内蔵助の屋敷も造られ、あわせた広さは殿の御館とほぼ同じほどの規模であった。大手橋を渡った永国寺までの一帯と、南手に延びる寺町筋の両脇には多くの武家屋敷が造成された。

人吉城の北と西は球磨川と胸川の二本の大きな川が流れ、そこを堀と見立てて石垣が築かれたので難工事ではあったが、その分堅固な城壁となった。ところが、五層仕立ての天守閣が三層までほぼ出来上がった頃、『たかが二万石余りの小藩に天守閣など滅相もない』と囁かれ、殿の命によ



■主な登場人物

相良清兵衛(犬童頼兄)＝相良家 家老
相良頼房(長每)＝相良家 第20代当主
宗義智＝対馬家当主

り二階建ての護摩堂となり、のちには徳川家の位牌と相良家歴代の位牌が祀られ、願成寺や永国寺などの僧や各霊山の山伏たちが交代で朝夕毎日、護摩祈祷をとり行った。

この年も秋の収穫の季節となった。清兵衛は対馬家当主・宗義智に贈る米の段取りを部下に指示していた。

秀吉の命で最初に朝鮮に出兵した折り、これまた清兵衛と宗義智公と同じ年の生まれという事もあり意気投合、帰国後も戦友、盟友としての付き合いがあった。相良軍が朝鮮での実質的な最初の戦いになった『臨津江』渡航の時にはお互い知恵を出して乗り切った。それからすでに十五年が経っていた。

文祿元(一五九二)年、秀吉の命で『唐入り』をしてひと月ほどが経った頃、漢城を落とした日本軍は北へ向かって進軍、イムジン川河岸にいた。その川の大きさに圧倒されていた清正は、

「さて、これだけの広きの川を馬や装備や兵糧すべて運ぶとなるとなんぞ策が必要じゃが、小西殿、宗殿、相良殿、いい知恵はありますか」

行長は肥後の宇土に来る少し前まで瀬戸内海の警護を秀岡本河内守も内田伝右衛門も万江長右衛門も頼房公の父・義陽公の頃から特に秀でた相良家臣で、島津義久率いる薩摩軍と幾度も争い戦功をあげたつわもの達であった。

「おお、なるほどそれは妙案かと」
相良の武将たちみなが頷いた。行長と清正はこの戦法をまだ知らなかったようだ。

「頼兄殿、その『釣り野伏せ』とはいかなるもので」
「されば、薩摩がよく使いました戦法にございます。先ず、敵前近くに少数の軍を配し敵をおびき寄せ引きつけ、頃合いをみて一齐に引き揚げさせます。それに乗じて攻めてきた敵を、左右に隠れ潜んだ本隊が一網打尽にする仕掛けにございます。肥前龍造寺殿との一戦では五万を超える敵兵を、我が相良軍が先鋒を務め総勢三千で撃破致し申しました。こたひはここに広い川があります故、夕暮れ時に火を放つていったんこの場を退散致しましょうぞ。それを見て敵の舟がこちらへ追撃に渡つてくればこれ幸い。舟を取りあげ明朝の明け方前にも向こう岸

吉から命じられており、海運には自信があったが、
「うーん、如何したものじゃろう。拙者瀬戸内での水運にはいささか心得はありますのじゃが」

海運に長けた行長もなかなか名案が浮かばなかった。対馬の宗義智は、

「そうですね。我が軍も舟さえあれば何と致し申すのじゃが」
頼房公は、

「そうですね。これだけの大河、球磨川より更に遙かに広うござる。さすれば如何して渡りましょうぞ。お、向こう岸には敵軍の船が多数見えまするが、こちらへ攻め入るつもりでありますうや」

それに乗じて清正が、
「そういえばかなりの数の軍勢を寄せ集めたようじゃやう。頼兄殿、して何かいい策はないものか。この場をいかにするかじゃが」

と落胆しながら言い放った。暫く考えていた清兵衛頼兄が、

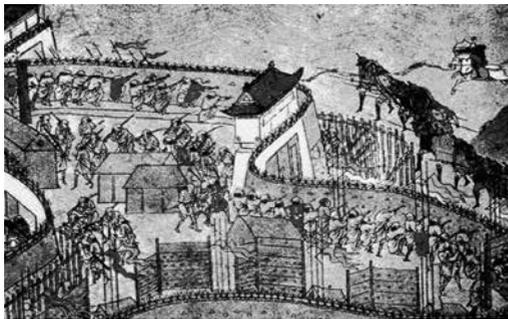
「清正殿、あいやしばらく。岡本殿、内田殿、万江殿、この際島津の『釣り野伏せ』は如何かと」

まで渡り、一気に敵軍を蹴散らす。という戦略は如何でござりましょうや」
「おう、そういう戦術にござったか。それは妙案。では夕暮れまで敵の気を引くよう、暫くこの場で奇声を発しようぞ」
『タイ捨流』師範である剣豪丸目蔵人佐は二人の弟と共にその場にいたが、複雑な面持ちであった。彼は自分の判断で相良家を窮地に追い込んだ大口・砥上での戦いを思い出していた。この薩摩軍の『釣り野伏せ』にまんまと引掛かり、その戦いで千人近い相良軍の仲間が討ち死に、さらに大口と菱刈も手放すこととなった。これにより自ら二十年以上も球磨の地を離れねばならなかった因縁の戦法だったのだ。

日暮れも近付き清正率いる兵が軍旗を数枚燃やして川岸から撤退、そのすぐ先の物陰に隠れるように布陣をする。案の定十数隻の舟が灯をともしながらこちらの岸へ渡つて来た。敵軍が舟から降りてしばらく進んだ場所で一気に攻撃をしかけ、いとも簡単に舟を取りあげた。その後取り敢えず先発隊を暗闇に発し、川岸に上陸をして寝込んで空になった舟のほとんどを手前側の岸まで音も立てずにゆっくり運ばせた。この役目は普段、舟を渡し慣れている天草衆と対馬衆が活躍した。

翌朝の暗いうちに舟に乗り込み音も無く対岸に近付くと、まだ寝入っていた朝鮮軍を一齐に攻撃した。まさかの襲撃により敵軍は総崩れ、難なく陥れることが出来たので、宗義智も頼兄を一機に信頼しきって、その知恵に驚きを隠せなかった。この事があって二人の信頼関係は更に深まっていたのだ。このあと意見が喰い違ふ加藤清正・小西行長両隊長の下で相良軍と宗軍は各々大いに奮起し、お互い大活躍を治めた。

さらに宗義智の対馬はそれまで長い間朝鮮を相手に交易をしており、朝鮮も明も室町時代からその存在を認めた家柄で、この度秀吉の命により朝鮮を攻める事になったためにその案内役と兵士、果ては渡海する舟の漕ぎ手としても多くの領民が呼ばれた。そのうち秀吉亡きあと全軍が撤退する際、相良



1598年に起きた露梁海戦などを描いた屏風絵「征倭紀功図屏」（国立中央博物館蔵）

軍がようやく釜山浦を離れて湾内を帰航中に明の大軍に行く手を阻まれ、その時にそれこそ『助け舟』を出して援護し、明軍から救出してくれたのが対馬の舟乗りたちであった。その助けがなかったら朝鮮での戦で、今までせつかく生き延びて来られたのが無駄になってしまうほどの窮地を対馬軍が救ったのだ。

両軍ともになんとか朝鮮から帰国を果たしたのち、その二年後に始まった関ヶ原戦では小西行長の誘いによってお互い石田三成率いる西軍にいたが、相良軍は途中で清兵衛頼兄の機転により東軍の徳川家康に寝返って国を安堵された。しかし、小西行長の長女マリアを妻にしていたキリシタンの宗義智はそのまま西軍に残ったが、家康に弓を引いた対馬の宗家はなぜかお取り潰しを逃れ、家康の許しを得てそのまま領地を安堵されていた。朝鮮や大陸との仲介役には義智が是非とも必要、と東軍の將徳川家康が判断したのである。

実際、関ヶ原の戦いから五年後の慶長十年には朝鮮からの使者の僧『松雲大師』が義智と共に家康と謁見し、宗義智の更なる努力の甲斐あって、さらに二年後の慶長十二（一六〇七）年、室町幕府以降より長年途切れていた『朝

鮮通信使』約五百名が徳川家康のもとに拜謁した。朝鮮との大戦争終結から僅か十年後には国交は回復したのだ。勿論朝鮮としても日本との友好は重要で、戦の際に連れ去られた数多くの捕虜の返還もその目的だった。朝鮮王朝は先の戦争の謝罪国書を、宗義智を通じ今の日本国王である徳川家康に求めたが、実は義智は刻印を偽造した家康の国書を作成して朝鮮王朝に送っていたのだ。

その宗義智に清兵衛は関ヶ原戦以降、秋の収穫時になると毎年米百俵ほどを贈り続けていたのだ。対馬の陸地はそのほとんどが雑木林の山ばかりで、米が出来る田んぼはごく僅かしかなかったし、秀吉の命により島民の半分以上に当たる五千人の大軍が朝鮮に出兵させられ、働き手がいなくなり喰い物が無くなった。残った年寄りや女子供は次々と島を離れたため、農地や漁場が荒れ放題になっていた事を知っていたからだった。米は朝鮮から無事に帰国できた心からのお礼でもあった。そのお返しに宗義智からは高価な明や朝鮮の焼き物、ガラス製品や紫檀家具など、珍しい品々が多数贈られてきていた。後年、相良家には宗家に仕えていた家臣が移り住んだ事が史実に残されている。（つづ）

【やまぐち・けいじ／人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

むげえこつ 相思相愛だつたてエ
お暇なら カルチャー梯子おすつたい
太ッ腹 長男やつてええちわす
ン どうも男のちらつくが
芸術 見方次第じゃ口の裸婦
さっぱり キア明日から一私人
余る 知恵なら分けてやつてええ
のさん 僕も二人は貰われん
夕涼み 昨日の敵 討つつもり
よか趣味 図書館な涼しゅうもある

【むらかみ・きけん／人吉市】

家族はつらいよ3 「妻よ薔薇のように」

久馬 俊

梅雨入りした。その途端、百足ひかに刺された。左手の親指である。強烈な痛みが走った。直ぐに水に冷やした。痛みは長くつづき親指は腫れあがった。尋麻疹じんましんもでた。百足の被害としては人生で2番目の痛みであった。なぜ、2番目か。病院にいかなかったからだ。数年前、刺されたときは我慢できない痛さで深夜の2時に病院に向かい、痛み止めの注射を受け3日ほど通院した。

今回は我慢できた。我慢できたとはいえ、並大抵の痛みではなかった。市販の軟膏を傷口に塗り、漢方薬の葛根湯を服用した。葛根湯は血行をよくし百足の毒の拡散に役立つとのアドバイスにしたがった。痛みが続いたので、このアドバイスは疑問に思っている。傷口の消毒の意味で日奈久温泉にいった。痛みが柔らいた気もしたが、温泉

の効果は継続しなかった。百足防止の薬剤があるらしいので、それを購入するつもりだ。それにしても左手の親指で幸いであった。右手の親指ならさぞかし不自由したであろう。そういうこともあつて映画館に向かった。

山田洋次監督の映画は無難である。寅さんシリーズのときと同じでドキドキ感にさいなまれることなく安心して観れる。お巡りさんと出前屋さんが毎回登場するところに特徴がある。出演者に変化がないところ(たとえば小林稔侍さん)も山田映画の特徴だ。

「おじいちゃん、死んじゃったって。」は、三世代同居的な大家族を前提にしていなかった。その崩壊が前提であった。現実社会をみると、「家族はつらいよ」の家族構成は現実味が薄い。それに平田家は裕福すぎる。お

じいちゃんとおばあちゃんはそれぞれに収入があつて、しかも家事をしない。奥さんは専業主婦である。こういう家庭は少ないだろう。ゴルフに行つて、その帰りに小料理屋で一杯かたむける余裕のあるおじいちゃんが現実にとれほどいるだろうか。パートにも出ない奥さんがどれほどいるだろうか。特上のウナギを注文できる家族がどれほどあるだろうか。

こうしたところに注目すると、一体、山田監督はなにを考えているのかとなりそうだが、その程度のことでは、山田監督は十分に承知しているだろうし、そのうえで、家族のあり方を考えているにちがいない。それが、なかは、いまのところ、見えてこない。シリーズ3回目



家族はつらいよ3
「妻よ薔薇のように」
脚本・監督：山田洋次
2018年 松竹
出演：橋爪功・吉行和子・
西村まさ彦

すぎないので見えないかもしれない。回を重ねていけば、それが見えてくるかもしれない。寅さんシリーズでは、まったく別の家族像であったことにも山田映画を理解するうえで留意すべきだろうが、そこまで考える余裕はないものの、家族の崩壊の事実や過程を描くのではなく、崩壊にむかわないようにするために、どのような工夫が必要であるかに力を入れていることは分かる。

出演者はみなさん演技が上手い。今回は、専業主婦・史枝役の夏川結衣さんのフラメンコに驚いたけれども、シリーズを通しては小料理屋の女将さん・加代の吹雪ジュンさんに注目したい。寅さんシリーズの笠智衆さんのな役回りを演じているようにみえるからだ。小料理屋の女将さんの姿を目にしなくなっているからでもある。

作品のストーリーは、これまでと同じく、文庫本になつてまとめられている(講談社文庫)。最近、物忘れがひどいのでノート代わりに文庫本を買おう。しかし、その前に、百足対策が必要だ。薔薇の花の刺トゲのように、百足でもそれに刺されると痛いのである。

【ぎゅうま・すぐる／八代市】

問1 トルストイの翻訳者の名前を5人あげよ (例: 北御門二郎)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問2 人吉球磨地方を訪問した有名人の名前を5人あげよ (例: 与謝野晶子)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問3 次の記述は正しいか。正しいときには○を、間違っているときには×をつけよ

- ① 総理大臣は衆議院議員でなければならない
- ② 最高裁判所の長官は天皇が任命する
- ③ 三権の長というとき、参議院員の議長は含めない
- ④ 明治憲法のもとでは、「元老」という制度があった
- ⑤ 皇室の構成員は自由に結婚できない
- ⑥ 国会議員は選出選挙区の利益のために活動する義務を負う
- ⑦ 国会議員の数は憲法が定めている
- ⑧ 最高裁判所の裁判官は司法試験に合格した者でなければならない
- ⑨ 国会議員には歳費が支払われるが、地方議員には支払われない
- ⑩ 憲法 41 条は国会は国権の最高機関と定めているので、内閣と最高裁判所は国会の決定に従わなければならない

問4 次の駅のある自治体名を書け 例: 八代駅 (八代市)

- ① 海路駅 ()
- ② 白石駅 ()
- ③ 渡駅 ()
- ④ 肥後西村駅 ()
- ⑤ 公立病院前駅 ()

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは87頁で。

問4 次の写真の名前を書け (ヒント: 本誌 26 号)

① ()



② ()



くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

財務省のセクハラ防止研修に肝心な人は姿も見せず

司法までアベの支配に屈するや梅雨空に聞く佐川の不起訴

柳原 三男

老いてなお料理教室にぎやかに計量スプーンより勘に頼りて

夕暮れて五月の細き月を見るアラジンの舞う剣の如し

坂本 ケイ

転倒し床にしたたか頭打つ 大声出して夫駆けくる

肺炎にかかりし夫の息せわし我を抱えて咳き込みおりぬ

上田 迪子

花嫁の手紙何より父母が絵本をたくさん読んでくれしと

沖繩に教えられしはただ平和「命どう宝」命こそ宝

宮川しのぶ

朝鮮に生まれ育ちし亡き友の悲願でありし統一なるや

酒酌めば涙ぐみつつ亡友はイムジン河を歌いておりし

上田 精一

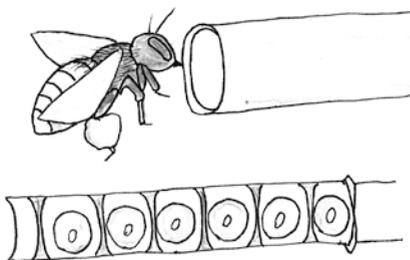
おっとわっとあすび その⑬

絵と文／松舟博満

クドん火おこすてにや、ちやつ
けちゅう杉葉ん火つけて、いきの
まちいたきもんくべたつちやつか
じやつたで、竹ば同じごてこだめ
てあつとんちやつけてうえてから、
小みんかたきもんば乗せてヒオコ

昔やガスでろん石油は、使わん
じやつたで、家ん中きやどおじ（土
間）あつて、壁んとけ泥で作つて
あるクド（カマド）んあつて、そ
んぐるりにや水道ん無かつたで、
はんずがめ（水瓶）ん水汲んで
きてうえてあつた。母さんの炊事
しやつときや、クドんたきもん（薪）
ばくべて、飯でん汁つでん炊きお
らいた。

タカンポバチのだご



シで吹いてやればつきおつた。
竹んたきもんの中きやニガタケ
ば小だめてあつとんあつたで、そ
こば良う見とけば、ミツバチんぐ
たつとのタカンポん中きや、後ろ
ん足い黄んか花粉ばつけて入つて
たて、出てくつときにやついちやお
らじやつたで、日にや何べんもタカ
ンポん中きや入れぎやきおつた。
そぎやしおつうちん、ハチの入つて

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇
神社・文化苑「童遊館」】
こんごらたきもんも見つこたあ
無かめえひなつたで、タカンポバ
チんひやつていく竹もなかめえなつ
て、今んなればどぎやんハチじやつ
たか、わからんめえひなつてしも
うた。

行きおつた所んの泥ん壁で塞がつ
てしまつて、そんときや中きやにや
だごば作つて入れてしもうたちゆう
こつじやつて、そん竹ば引きじやつて、
うち割つて見れば、中にや二分ぐ
りやん丸さの濃いか橙色んだごを
ば一ちよすつ入り口んしてあつた泥
壁で仕切つてあつた。
だごば取つじやつて良う見れば、
白か小みんか卵のあつたで、そつ
ばうしてて食えばびつしいか甘か
味んした。

外来語から学ぶ英単語 (27) …… 藤原 宏

クライシス・クリティック・クリティーク・クリティカル・クリテリオン
crisis critic critique critical criterion

ギリシャ語「krino (クリーノ、分ける・分離する)」から発展したことばです。「crisis (クライシス)、危機・重大局面・(病気の)峠」は、ギリシャ語「krisis (クリシス)、病気が回復するか死に向かうかの重大な時期」から転じて、一般的に物事の重大局面、特に政治、経済上の危機・難局を指すようになりました。

「critic (クリティック)、批評家・評論家」、フランス語から入った「critique (クリティーク)、文芸作品などの批評や評論」は、ギリシャ語「kritikos (クリティコス)、判断力に富んだ・判断できる」からの派生です。

critic に接尾辞「-al (…に関する・…の性質の・…に特有の)」がついたのが、形容詞「critical (クリティカル)、決定的な・重大な・危機の・(病気が)峠にある・危篤の・批評の・批判的な」です。

「criterion (クリテリオン・クライテリオン)、判断の規準・批判の標準・特徴」は、ギリシャ語「kriterion (クリテリオン)、判定基準・裁判」からの借用です。criteria (クライテリア) は複数形ですが、口語では単数扱いされることもあります。(394)



— フェアプレイこそスポーツ —

信じられない日大アメフト部のプレー。“危険なタックル”は、とて
も許せない。前監督・コーチは除名・永久追放。真相究明は当然。

うんぐ…
げっかん・ぎびょう

前号【くまがわ学習塾⑰の答え】

問1 以下の（ ）を埋めよ

- ① 相良家の家臣・相良清兵衛の父は（ 犬童休矣 ）である。★頼安でも可
- ② 相良頼房（長每）の正室は（ 秋月種美 ）の娘である
- ③ 江戸幕府の第2代将軍は（ 徳川秀忠 ）である
- ④ タイ捨流の創始者は（ 丸目蔵人佐 ）である
- ⑤ 相良家の菩提寺は（ 願成寺 ）である

問2 人吉球磨地方を訪問したことのある考古学者の名前をあげよ（例：濱田耕作）

- ①（ 寺石正路 ）
- ②（ 柴田常恵 ）
- ③（ 角田政治 ）
- ④（ 下林重夫 ）
- ⑤（ 坂本経堯 ）

問3 くまがわ鉄道の駅名を書け（例：多良木駅）

- ① 東多良木駅（本誌25号12頁以下参照）
- ② 公立病院前駅（本誌24号30頁以下参照）
- ③ 東免田駅（本誌23号14頁以下参照）
- ④ あさぎり駅（本誌22号8頁以下参照）
- ⑤ おかどめ幸福駅（本誌21号42頁以下参照）

問4 次の漢字を読み（例：精悍=せいかん）

- ① 鴨脚（ いちょう ） 本誌25号51頁参照
- ② 鴛（ おしどり ） 本誌24号29頁は「オシドリを漢字で鴛鴦と書く」と説明する。
そのとおりであるが「鴛」の一字では「オスのオシドリ」であることに注意
- ③ 悔悛（ かいしゅん ） 本誌23号47頁参照
- ④ 粗糲（ おこし ） 本誌22号27頁、同23号38頁以下参照
- ⑤ 赳々（ きゅうきゅう ） 本誌20号31頁参照

問4 次の写真の名前を言え

- ① 八代市坂本町にある
（ 百済来地藏堂 ）
- ② 球磨村川島集落にある
（ 布ヶ滝 ）



Haiku Column 16

今月の秀句

Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

<https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/>

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れたHaiku」を提案している『俳句大学』facebookページからの転載です。

Rosa Maria Di Salvatore

●
Giorno della Terra -
cammino a piedi nudi sull'erba
【Commented by Mitsunori NAGATA】
Sente la terra direttamente mentre
cammina sull'erba. Penso che lei
ringrazia la terra per il giorno della
terra.

ローザ マリア ディサルバトーレ

●
地球の日
裸足で草の上を歩く
【永田満徳評】
地球を「素足」でじかに感じ、地球の恵みの「草」を踏みしめ、地球に感謝しているのである。地球環境を考える「地球の日」の行事に相応しい行為と言えよう。

Nuky Kristijno

●
Spring shawl
Scent of my grandmother on my
shoulder
【Commented by Mitsunori NAGATA】
She thinks of her grand-mother wearing
her shawl. She speaks only of her scent.
It is a good example of omission.

ナッキー クリスティニョ

●
春ショール
私の肩におばあちゃんの匂い
【永田満徳評】
祖母の形見の「春ショール」を羽織つて、ありし日の祖母を偲んでいるのである。「匂い」とだけ言って、それ以上言わない俳句の省略が効いている。

Jean Luc Werpin

●
souffles courts des amants
~ aux antipodes un ouragan
【Commented by Mitsunori NAGATA】
Le contraste est merveilleux entre la
respiration paisible de l'amant proche
et l'orage tel que la guerre et les conflits
aux antipodes.

ジャン リュック ヴェルパン

●
恋人の短い息づかい
嵐は地球の反対側
【永田満徳評】
恋人の息を身近に感じながら、地球の裏側の「嵐」を思い遣る句である。安らかで平和な「息」と戦争、争乱などの「嵐」との対比がすばらしい。

【ながた・みつりのり／俳人協会会員、熊本市】

編集後記

ツクシイバラが開花した群生地では爽やかな風が吹く中、様々なイベントが行われた。この花を観光資源として活用しようとの声がサミットで出る(3頁)。その今後に注目したい。★今号は、先月亡くなった八代市の写真家・麦島勝さんにスポットを当てた(15〜23頁・48〜51頁)。八代市立博物館未来の森ミュージアムの協力をいただき実現した企画で、改めてお礼を述べたい。それにしても坂本福治さんと木崎康弘さんが選んだ一枚が、あざきり町深田西にある「立岩」(22頁)ということはある偶然であろうか。確かに不思議な風景であり印象に残る。岩の形が68年前とほとんど変わらぬことに驚いた。風化することもなく昔の姿を留めていることに自然の力の偉大さと、写真というものの奥深さを知ることができた。★次号も引き続き紹介することになるが、流域の暮らしを記録しつづけた麦島さんの作品は、これからも多くの人の心に残り続けるであろう。これまでの仕事の労をねぎらい、謹んでご冥福をお祈りする。(ま)

〒868-0015
熊本市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

開催中

- ▽八代市立博物館・春季特別展「能面乱舞―八代城主松井家伝来能楽」レクシオン(〜6月3日、未来の森ミュージアム)
- ▽「やまえと西南の役」展(〜5月20日、山江村歴史民俗資料館)
- 5月17日(木)
▽2018「黄玄会」水彩画展(〜20日、お菓子店の香梅人吉店)
- 5月19日(土)
▽画家・流郷由紀子と染織家・佐藤美恵子のコラボ展(〜26日、ひこよし森のホール)
- ▽一般社団法人「青井の杜外苑街づくり協会」設立総会(青井阿蘇神社参集殿)
- 5月20日(日)
▽第32回「織月まつり」(人吉市・織月酒造敷地内)
- 5月21日(月)
▽人吉球磨日本遺産活用協議会総会(県球磨地域振興局)
- 5月26日(土)
▽人吉市梅園梅祭り開放(〜27日、同市大畑梅園)
- ▽ツクシイバラ・ランニング大会(くま川鉄道「錦町木上駅」近くツクシイバラ群生地)
- 5月27日(日)
▽MOZUCAステーション8000周年記念イベント(人吉駅横・同ステーション)
- ▽人吉市東西「ミセン」子ども成人講座開講式(同「ミセン」)
- ▽ツクシイバラ・ウォーキング大会・コンサート(くま川鉄道「錦町木上駅」近くツクシイバラ群生地)

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の枝

◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆納豆みそ 477円 (税抜)

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)

◆御膳醤油 300ml 650円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)

人吉散策コース 九州和食 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

合資会社 釜田醸造所
マルカマ 社長 釜田 元 嘉 頭
社長 釜田 元 嘉 頭

〒868-0001 熊本市人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp